

科 目 名	家庭教材研究 I
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

小学校学習指導要領に基づき小学校家庭科の目標や内容をさらに細部にわたって授業実践につながるような内容を扱う。実習や製作等の内容にもかかわり、実践や指導法を取り入れ実際の指導に役立つ内容を盛り込む。年間指導計画や指導案作成、模擬授業を盛り込み指導についての理念や指導技術の向上をはかる。I では主に入門期の内容を扱う。

2. 内容

領域ごとに連続して扱う。

（1）食領域の内容

- ①栄養指導
- ②調理実習の指導
- ③食の課題

（2）衣領域の内容

- ④被服の役割
- ⑤保存や保管（洗濯実習）
- ⑥～⑧被服製作

（3）住領域の内容

- ⑨すまいの役割
- ⑩快適な住まい方

（4）家族に関する内容

- ⑪多様な家族
- ⑫自分の生き方

（5）生活を取り巻く課題や展望

- ⑬～⑭地域とのかかわり、環境問題（水とゴミ）
- ⑮消費者問題とまとめ

3. 評価

課題レポート、実習、製作、発表（25％程度）毎回の記録等（75％程度）で総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領、家庭科の教科書

【推薦書】 授業で紹介する。

【参考図書】 家庭科のワークブック他授業で紹介する。

科 目 名	家庭教材研究Ⅱ
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

小学校学習指導要領に基づき小学校家庭科の目標や内容をさらに細部にわたって授業実践につながるような内容を扱う。実習や製作等の内容にもかかわり、実践や指導法を取り入れ実際の指導に役立つ内容を盛り込む。年間指導計画や指導案作成、模擬授業を盛り込み指導についての理念や指導技術の向上をはかる。Ⅱでは主にⅠを深めた内容（6学年の内容）を扱う。

2. 内容

領域ごとにこれまで実施していない実習や製作を加え、教材研究を深める。

（1）食領域の内容

- ①食生活を見直そう
- ②栄養素のはたらき
- ③加工食品と添加物

（2）衣領域

- ④衣服の手入れ
- ⑤繊維の種類や品質表示
- ⑥小物製作
- ⑦小物製作
- ⑧小物製作

（3）住領域

- ⑨住まいのはたらき
- ⑩安全にすむには
- ⑪清潔な住まい（清掃や整理整頓、収納）

（4）家族に関する内容

- ⑫自立するには
- ⑬家族とのかかわり

（5）生活を取り巻く課題や展望

- ⑭地域とのかかわり
- ⑮消費生活と環境

3. 評価

課題レポート、実習、製作、発表（25％程度）で毎回の記録等（75％程度）で総合的に評価とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校指導要領、家庭科の教科書（開隆堂）地域教材社の家庭科のワークノート（授業開始後購入予定）

【推薦書】【参考図書】いずれも授業で紹介する。

科 目 名	家庭概説
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

家庭生活を中心に小学校5,6年児童を対象にした教科である家庭科の概要を扱う。家庭科教育の変遷を踏まえて生活における今日的課題も取り扱う。児童の実態や実践を盛り込んでこれからの家庭科のあり方を考えると共に家庭科教育の中でも特に小学校の指導に視点を置き、小学校学習指導要領の中にどのように位置づけられているかを把握する。個人の生活に関する課題追求の他、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。指導法にも多様な方法があることを知る。

2. 内容

- 1、家庭科教育で何を学ぶのか
 - ①本授業計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス
 - ②自分自身の家庭生活を振り返り課題を持ち、生活レポートにして提出する。
- 2、家庭科教育について
 - ③家庭科の変遷
 - ④小学校家庭科の位置づけと主な目標や内容（小学校指導要領）
- 3、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容に触れ簡単な実践や体験を盛り込む。

 - ⑤～⑦衣生活（衣服の役割や縫製指導 聖作）
 - ⑧～⑪食生活（3回の調理実習と食品、栄養等）
 - ⑪～⑬家族生活（上記の3領域と関連づけて扱うほかロールプレイングをグループで制作し発表を入れる）
- 4、生活の中の今日的課題
 - ⑭指導事例から消費者問題を考える。
 - ⑮サステイナブルな生活を目指す

◎できるだけ各授業初めに生活レポートの発表を入れる
実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

3. 評価

生活レポート10%、毎回課題レポート75%、作品15%程度で総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 小学校指導要領
 【推薦書】 こどもとおとなが一緒に読む絵本「人と食べものの話」 5巻 農山漁村文科協会
 【参考図書】 授業内で紹介提示する。

科目名	演習
担当教員名	綾井 桜子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	狩野 浩二

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	清水 玲子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	岡上 直子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	皆川 美恵子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習
担当教員名	山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

② 科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

③ 学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

2. 内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

①各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

②担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

①各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

②調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

3. 評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科 目 名	音楽技術A
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。個人レッスン。これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3－4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。

日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

また、経験者はその先の邦楽曲へと進めていく。2－3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

3. 評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術A
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。個人レッスン。これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3－4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。

日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

また、経験者はその先の邦楽曲へと進めていく。2－3人のグルーブレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

3. 評価

授業に対する、意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術B
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。
基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

2. 内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。
これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえていく。

3. 評価

授業に対する意欲・関心、態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術B
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。
基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

2. 内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。
これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

3. 評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員から出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術C
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。
これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。
日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

3. 評価

実技による評価を行う。

- ・授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合、実技評価が得られない場合がある。
- ・毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、実技評価が受けられない場合がある。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術C
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。
これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。
日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

3. 評価

実技による評価を行う。

- ・授業に対する意欲・関心・態度に欠けるばあい、実技評価が受けられないことがある。
- ・授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示がある場合も、実技評価が受けられない場合がある。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術D
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。
クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。
シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の中が広がり、機械の扱い方も応用できる。
保育現場で歌われる「こどものうた」や「童謡」などの演奏を中心に学ぶ。

3. 評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽技術D
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法Ⅰ・Ⅱ」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。
音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

2. 内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。
クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。
シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の中が広がり、機械の扱い方も応用できる。
保育現場で歌われる「こどものうた」や「童謡」などの演奏を中心に学ぶ。

3. 評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員の指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員から出される。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員から、授業時に教本の指示をする。

科 目 名	音楽教材研究Ⅱ
担当教員名	清水 玲子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「初等音楽科指導法」に準じた講義で、児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。
 具体的な指導の場面での実践的な力を身につけ、指導案を作成し、実際に模擬授業などを行う。
 小学校における音楽教育の指導力をたかめることを学修目標とする。

2. 内容

回	内 容
1	小学校学修指導要領について
2	全学年の題材と系統
3	1学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
4	1学年の模擬授業
5	2学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
6	2学年の模擬授業
7	3学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
8	3学年の模擬授業
9	4学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
10	4学年の模擬授業
11	5学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
12	5学年の模擬授業
13	6学年の歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導について・指導案作成
14	6学年の模擬授業
15	まとめ

3. 評価

毎回の課題発表（40点）、試験（50点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。
 合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「初等科音楽教育法」（音楽の友社） 「音楽科指導書 音楽編」（文部科学省）

科目名	I T活用授業演習
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク（LAN）が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

2. 内容

回	内 容
1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写しして吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	IT活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

3. 評価

授業中に行う課題に対する評価（30%）、継続観察レポートに対する評価（30%）、テスト（30%）、授業への参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科 目 名	学級経営法
担当教員名	高橋 京子、廣坂 多美子、増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。
- ②学級経営の基盤は教科の指導にない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信をもって児童や保護者に接することが出来るようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。
- ③問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者たちに適切な対応できる力を育成する。

2. 内容

回	内 容
1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。
2	学級教育目標設定の手順の例
3	学級経営案の作成（学級目標、学級経営方針、学級の実態把握）
4	学級経営の計画（教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導）
5	学級経営の計画（生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携）
6	学級経営の計画（学級事務の処理、学級経営の評価）
7	各種表簿，観察を通じて，児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向，得意教科や不得意教科，つまずきなど実態の把握方法。
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動をよりよい環境構成。
10	学習評価，譜表簿作成などの事務処理の実際。
11	学級経営に関する保護者への通知、学級だよりや懇談会等での連携の方法。
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ。
14	家庭及び地域の様子の把握。
15	振り返りとまとめ

3. 評価

提出物（40％）、小テスト（40％）、試験（20％）によって総合的に評価する。
60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】
小学校学習指導要領解説 総則編
【推薦書】
なし（作成中）

科目名	教職演習Ⅱ
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教職を目指す受講者のための選択科目である。教育の動向や学校教育の現状や課題などについて把握、理解するとともに、受講者自身の教育に対する考えを広げたり深めたりするものである。
- ② 科目の概要
講義を受けるとともに、受講者自らも主体的に課題を調べ、報告・発表するなどの取り組みをする中で、授業内容の理解や実践的な表現力などをつけることを図っていく。
- ③ 学修目標
 - ・ 教員の法的位置づけや学習指導要領に関してより深く理解する。
 - ・ 学校教育が抱える今日的諸課題や新たな教育課題について、学校や児童・生徒との関わりにおいて具体的にとらえ、考察し、理解を深める。
 - ・ 諸課題に関して、自己の考えを持ち、それを相手に分かりやすく表現できる力をつける。

2. 内容

- 1 社会から要請されている教師の役割
- 2 教育公務員の法的な位置づけ（教育関係法規）
- 3 学校教育の法的な位置づけ（教育関係法規）
- 4 教育関係法規と学習指導要領の位置づけ役割
- 5 学習指導要領の基本理念
- 6 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（1）国語、社会、
- 7 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（2）算数、理科、
- 8 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（3）生活、音楽、
- 9 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（4）図画工作、家庭、体育、
- 10 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（5）道徳、外国語活動、
- 11 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（6）総合的な学習の時間、特別活動
- 12 教育課程の基本的な枠組みと学校における教育課程の編成
- 13 学校における教育課程の実施・評価・改善
- 14 学校教育における今日的課題(1) (学力の向上)
- 15 学校教育における今日的課題(2) (生徒指導上の課題)
- 16 学校教育における今日的課題(3) (児童生徒の心・意欲に関する課題)
- 17 新たに取り組むべき教育内容的課題（食の指導、キャリア教育、エコの関する指導、等）
- 18 保護者・地域との関わり・連携に関する課題
- 19 各種の教育答申
- 20 国の教育方針・施策の動向
- 21 各都道府県・政令市が掲げる教育方針
- 22 各都道府県・政令市が独自に取り組む教育施策
- 23 教員の年齢構成の実情とそこから派生する諸課題
- 24 教員の大量退職・大量採用時代における教育の質的低下の防止策
- 25 各都道府県・政令市の教員採用の動向と将来予測
- 26 各都道府県・政令市が求める教員像
- 27 教育の諸課題に対する自己の考えを表現する（1）（文章記述による表現）
- 28 教育の諸課題に対する自己の考えを表現する（2）（言葉による表現）
- 29 教育に諸課題に対する自己の考えを表現する（3）（話し合いの中での表現）
- 30 まとめ

3. 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説（総則編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 各種審議会等からの答申文 等
 - ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	教職演習Ⅱ
担当教員名	高橋 京子、廣坂 多美子、増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教職を目指す受講者のための選択科目である。教育の動向や学校教育の現状や課題などについて把握、理解するとともに、受講者自身の教育に対する考えを広げたり深めたりするものである。
- ② 科目の概要
講義を受けるとともに、受講者自らも主体的に課題を調べ、報告・発表するなどの取り組みをする中で、授業内容の理解や実践的な表現力などをつけることを図っていく。
- ③ 学修目標
 - ・ 教員の法的位置づけや学習指導要領に関してより深く理解する。
 - ・ 学校教育が抱える今日的諸課題や新たな教育課題について、学校や児童・生徒との関わりにおいて具体的にとらえ、考察し、理解を深める。
 - ・ 諸課題に関して、自己の考えを持ち、それを相手に分かりやすく表現できる力をつける。

2. 内容

- 1 社会から要請されている教師の役割
- 2 教育公務員の法的な位置づけ（教育関係法規）
- 3 学校教育の法的な位置づけ（教育関係法規）
- 4 教育関係法規と学習指導要領の位置づけ役割
- 5 学習指導要領の基本理念
- 6 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（1）国語、社会、
- 7 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（2）算数、理科、
- 8 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（3）生活、音楽、
- 9 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（4）図画工作、家庭、体育、
- 10 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（5）道徳、外国語活動、
- 11 学習指導要領における各教科・領域の目標、内容、取扱い（6）総合的な学習の時間、特別活動
- 12 教育課程の基本的な枠組みと学校における教育課程の編成
- 13 学校における教育課程の実施・評価・改善
- 14 学校教育における今日的課題(1) (学力の向上)
- 15 学校教育における今日的課題(2) (生徒指導上の課題)
- 16 学校教育における今日的課題(3) (児童生徒の心・意欲に関する課題)
- 17 新たに取り組むべき教育内容的課題（食の指導、キャリア教育、エコの関する指導、等）
- 18 保護者・地域との関わり・連携に関する課題
- 19 各種の教育答申
- 20 国の教育方針・施策の動向
- 21 各都道府県・政令市が掲げる教育方針
- 22 各都道府県・政令市が独自に取り組む教育施策
- 23 教員の年齢構成の実情とそこから派生する諸課題
- 24 教員の大量退職・大量採用時代における教育の質的低下の防止策
- 25 各都道府県・政令市の教員採用の動向と将来予測
- 26 各都道府県・政令市が求める教員像
- 27 教育の諸課題に対する自己の考えを表現する（1）（文章記述による表現）
- 28 教育の諸課題に対する自己の考えを表現する（2）（言葉による表現）
- 29 教育に諸課題に対する自己の考えを表現する（3）（話し合いの中での表現）
- 30 まとめ

3. 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説（総則編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 各種審議会等からの答申文 等
 - ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	教職演習Ⅲ
担当教員名	黒瀬 任通、高橋 京子、廣坂 多美子、増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教職を目指す受講者のための選択科目である。教職演習Ⅱの学修の上に、さらに今日的な教育課題を題材に、受講者自身の教育に対する見方・考え方を広げ深める中で、教育的信念の確立をねらうものである。
- ② 科目の概要
実際の教室における授業や指導場面、または対面している相手を想定して、時間設定などをする中で、具体的な動きや対応を考えながら、臨機応変に進められる授業形態で取り組み進める。
- ③ 学修目標
 - ・ 国の教育動向、学習指導要領の内容や変遷などをより深く理解する。
 - ・ 教員としての学習指導や生徒指導の実践的指導力を高める。
 - ・ 自己の特徴や考えを、文章や言葉などで表現したり、相手とうまくコミュニケーションできたりする教師としての表現力を高める。

2. 内容

- 1 学習指導要領の変遷
- 2 今次、学習指導要領の改訂の基本理念とポイント
- 3 国の教育会議からの各種答申の内容と学校教育
- 4 都道府県・政令市が取り組む独自の教育施策
- 5 都道府県・政令市が掲げ求める教師像
- 6 めざす児童・生徒像、めざす学級像、学年目標、学級目標
- 7 学級づくり（1）学級の日常生活のルールづくり
- 8 学級づくり（2）学級の学習のルールづくり
- 9 学級づくり（3）学級の活動ノルールづくり
- 10 学級での授業の法的位置づけ（「法」と「学級での授業」までのつながり）
- 11 学習指導の実際と工夫のポイント（学習指導案の作成）
- 12 学習指導の実際と工夫のポイント（学習に使う資料の準備）
- 13 学習指導の実際と工夫のポイント（学習の場づくり）
- 14 学習指導の実際と工夫のポイント（授業展開に合わせた発問の工夫）
- 15 模擬授業の展開（国語）
- 16 模擬授業の展開（算数）
- 17 模擬授業の展開（社会）
- 18 模擬授業の展開（理科）
- 19 生徒指導の実際（事例的指導の実際）
- 20 生徒指導の実際（場面指導のあり方）
- 21 自己の特徴や考えを表現する技法（文章による）
- 22 自己の特徴や考えを表現する技法（実技・行動演技による）
- 23 自己の特徴や考えを表現する技法（言葉による）
- 24 人と対面した時の関わり方（コミュニケーションの実際）
- 25 質問されたことに関して自己の考えを表現する（学習指導に関して）
- 26 質問されたことに関して自己の考えを表現する（生徒指導に関して）
- 27 質問されたことに関して自己の考えを表現する（教育方針・施策に関して）
- 28 討論の中で自己の考えを表現する（学習指導・生徒指導に関して）
- 29 討論の中で自己の考えを表現する（学級づくりに関して）
- 30 まとめ

3. 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 各種審議会等からの答申文 等
 - ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科 目 名	教職演習Ⅳ
担当教員名	岡上 直子、黒瀬 任通、高橋 京子、廣坂 多美子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教職を目指す受講者のための選択科目である。
教師としての自己の教育に対する考え方、教師としての自己のあり方等の根本となる信念の確立をめざすものである。
- ② 科目の概要
学校教育の具体的な課題を取り上げ、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組む。また、指導の実際を模擬授業、場面指導として表す取り組みを行なう。
- ③ 学修目標
 - ・ 自己の教師としての学習指導、生徒指導、保護者への対応に対する考え方、あり方等をより一層磨き深める。

2. 内容

- 1 現在の子どもたちの抱える実態と課題
- 2 学習指導の在り方と実際（模擬授業、場面指導の実践）
- 3 生徒指導の在り方と実際（模擬授業、場面指導の実践）
- 4 児童生徒の活動に対する指導の在り方と実際（模擬授業、場面指導の実践）
- 5 都道府県・政令市が掲げる教育施策に対する自己の受け止め方と具体的な取り組み
- 6 自己の特徴を活かした教師としての取り組み（文章記述、ことばで表現する）
- 7 信頼される教師の姿とあり方
- 8 めざす学級経営のあり方を表わす（文章記述、言葉による表現）
- 9 めざす学級像、児童生徒像についての考察と表現
- 10 学級のルールづくり（生活、学習、活動、等）
- 11 体力向上、健康を守る児童生徒の意識づくりと指導・育成のあり方
- 12 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を文章により表現する。
- 13 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を言葉により表現する。
- 14 学力向上に対する考え方、具体的取り組み方を文章記述、言葉で表現する。
- 15 まとめ

3. 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説（総則編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 各種審議会等からの答申 等
 - ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	教職演習Ⅴ
担当教員名	岡上 直子、草野 一紀、黒瀬 任通、高橋 京子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教職を目指す受講者のための選択科目である。
教師として学校に勤務することを想定し学校における教育活動の実際への対応について実践的に考察し取り組む科目である。
- ② 科目の概要
学級担任や学年に所属する教師が取り組む多くの教育活動について、具体的な事例や場面を想定し、実践的に活動に取り組んでいく学修活動を進める。
- ③ 学修目標
 - ・ 担任を担当する教師として教育活動に取り組んでいける実践的技能を身につける。

2. 内容

- 1 学級担任の1日
- 2 めざす児童生徒像
- 3 学級経営案の作成
- 4 学級目標、学級のルールづくり（学習、生活、活動、遊び、等）
- 5 学級担任の仕事の内容と実際（学級運営の在り方）
- 6 学級担任の仕事の内容と実際（学習指導のあり方）
- 7 学級担任の仕事の内容と実際（生活指導のあり方）
- 8 学級担任の仕事の内容と実際（保護者・地域との関わり方）
- 9 朝の会、帰りの会のあり方、児童生徒の係り活動の実際
- 10 学級の日常活動の実際（給食活動、清掃活動等のあり方）
- 11 学級通信のあり方と実際
- 12 授業参観の運営のあり方（参観授業、保護者会の運営）
- 13 児童生徒の成績物の管理（児童生徒の作品管理、成績の記録、相談記録、等）
- 14 学級担任が管理する諸表簿等の実際（出席簿、指導要録、通知票、等）
- 15 まとめ

3. 評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説 平成20年8月 文部科学省 等洋館出版社

科 目 名	教育実習 I
担当教員名	狩野 浩二、綾井 桜子、井口 磯夫、岡上 直子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

- ①この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。
- ②教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。
また、教育実習後の発表、協議を行う。
- ③教員にかかわる法規について知る。
実習の意義と心構えについて学ぶ。
指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

2. 内容

回	内 容
1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規 ①
3	教育関係法規 ②
4	教育課程、児童指導
5	小学校学習指導要領 ①
6	小学校学習指導要領 ②
7	学習指導案の作成 方法
8	略案の作成と授業の実際 ①
9	略案の作成と授業の実際 ②
10	略案の作成と授業の実際 ③
11	事例研究 ①
12	事例研究 ②
13	就学前の幼児を知る
14	教育実習事後指導 ①
15	教育実習事後指導 ②

3. 評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）
事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

科目名	教育実習Ⅰ
担当教員名	狩野 浩二、綾井 桜子、井口 磯夫、岡上 直子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【この科目は、再履修者用です。3年生は3年次後期に履修してください。】

- ①この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。
- ②教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。
また、教育実習後の発表、協議を行う。
- ③教員にかかわる法規について知る。
実習の意義と心構えについて学ぶ。
指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

2. 内容

【再履修者用集中講義科目です】

※以下の内容は、取り扱う項目を示します（順不同）。

- 1 教育実習ガイダンス
- 2 憲法、教育基本法
- 3 学校関係法令
- 4 教育課程、児童指導
- 5 小学校学習指導要領 総則
- 6 小学校学習指導要領 各教科、領域
- 7 学習指導案の作成 方法
- 8 略案の作成と授業の実際 国語
- 9 略案の作成と授業の実際 図画工作
- 10 略案の作成と授業の実際 道徳
- 11 事例研究 保健安全指導
- 12 事例研究 生徒指導
- 13 就学前の幼児を知る
- 14 教育実習事後指導 各学校での経験を交流する
- 15 教育実習事後指導 副免（幼稚園実習）での経験を交流する。

3. 評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）
事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

科目名	教育実習Ⅱ
担当教員名	狩野 浩二、綾井 桜子、井口 磯夫、岡上 直子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【この科目は再履修、科目等履修生等のために開設します。4年次生は前期科目を履修してください】

①この科目は、小学校教諭Ⅰ種免許状を習得するには必ず履修する必要がある。

②この実習Ⅱは、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。

そのためには実習Ⅰを受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていることが重要である。その自覚がほしい。

③学校教育活動を実際の教育、現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的、偽儒とて気により深く学ぶ。、あた、実践力をつけることを目的とする。

2. 内容

【この科目は、再履修者、科目等履修者、4年次後期以降に履修する場合の科目です】

小学校教諭Ⅰ種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

3. 評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科 目 名	教育実習Ⅱ
担当教員名	狩野 浩二、綾井 桜子、井口 磯夫、岡上 直子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【4年生前期に実施します。注意してください】

- ①この科目は、小学校教諭Ⅰ種免許状を習得するには必ず履修する必要がある。
- ②この実習Ⅱは、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。
そのためには実習Ⅰを受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていることが重要である。その自覚がほしい。
- ③学校教育活動を実際の教育、現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的、偽儒とて気により深く学ぶ。、あた、実践力をつけることを目的とする。

2. 内容

小学校教諭Ⅰ種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

3. 評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科 目 名	教育実践論
担当教員名	阿子島 茂美、岩井 雄一、狩野 浩二、黒瀬 任通 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 教員（義務教育学校）免許取得のために義務づけられている「介護等体験」に必要な基本的知識を学ぶ科目です。
- ② 介護等体験（七日間）に加えて、事前と事後の指導を総合して評価します。2年次には、この科目を登録するための事前ガイダンスが行われます。教職課程センターの掲示に注意してください。
- ③ 体験の対象となる社会福祉サービスを利用している人、社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を図ること、体験時に必要となる対人援助について、コミュニケーションを中心に体験的理解を行なうこと、多様な価値観と幅広い人間観を培うことの重要性について学ぶこと、がねらいです。

2. 内容

開講日は通常の講義時間帯以外に行うことがある。掲示等に注意すること。
事前ガイダンス、説明会、施設との打ち合わせ等が随時行われるので、掲示等に注意すること。
下記は、あくまで取り扱う内容を示したものである。

1. 事前指導
 - (1) 社会福祉教育について
 - (2) 対人援助について
 - (3) 介護等体験の目的について
 - (4) 介護等体験における心構え
 - (5) 自己目標をたてる
 - (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
 - (7) 特殊教育と障害児者について
 - (8) 配属先施設についての自己学習
 - (9) 社会福祉施設の専門職について
 - (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
 - (11) コミュニケーション理解
 - (12) 車椅子、食事介助、移乗等の方法
2. 介護等体験（福祉施設、特別支援学校等）
3. 事後指導
 - (1) 介護等体験における個別振り返り
 - (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

3. 評価

授業時、実習時のレポート等【30 点】、授業態度【20 点】、介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価【50 点】

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】

- ※教職課程センターから貸与されるものがあるので注意すること。
- ※体験先に提出するもの、体験後に教職課程センターに提出するものがあるので、注意すること。
- 埼玉県社会福祉協議会「学生のための介護等体験埼玉ガイドブック」
- 全国社会福祉協議会「新版・よくわかる社会福祉施設教員免許志願者のためのガイドブック」

科目名	教育心理学
担当教員名	綿井 雅康

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

②科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

③学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

2. 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

3. 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育方法Ⅰ
担当教員名	井口 磯夫、狩野 浩二

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習Ⅰ」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

2. 内容

回	内 容
1	教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
2	授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
3	授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
4	指導案作成（実習課題）
5	教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
6	問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
7	教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
8	授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
9	コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
10	学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
11	特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
12	授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
13	教育評価の役割と方法
14	学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
15	まとめ

3. 評価

評価は、授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、課題の提出状況と達成度を40%、最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う予定である。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編「新訂教育の方法・技術」教育出版
 【参考図書】岩波講座「教育の方法」10巻シリーズ

科 目 名	教育方法Ⅱ
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、教職課程の選択科目として開講されている。
 教育方法は広義には、教育内容、学習形態、教授組織、教育メディア、学級経営、生活指導、学習環境、授業評価など、学校教育に関するあらゆる技術的な問題を扱う分野である。
 本講義では、授業設計を中心に学ぶ。授業設計の中に取り入れるさまざまな情報機器の活用（特にコンピュータの利用）の方法について学ぶ。

2. 内容

回	内 容
1	教授・学習過程のシステム分析（ブラックボックスと制御システム）
2	教授・学習過程とコミュニケーション過程（コンフリクトをもつフィードバックシステム）
3	カリキュラム開発と教育工学
4	授業目標の設定（教育目標の分類と行動目標、評価の観点、ルーブリック）
5	学習集団の編成（学級集団、集団の機能、集団学習形態の特質、集団の編成）
6	授業の個別化の理論と実際（適性処遇交互作用、コンピュータによる個別化）
7	教材とその開発研究（教材作成の意義、教材の評価の観点、教材作成の研究的意義）
8	教授メディアの考え方
9	教授メディアを活用した学習指導案と授業実施
10	I C T（情報機器）の授業への利用と実際
11	プロジェクト教材を活用した授業（プレゼンテーション技法）
12	コンピュータ実習（コースウェア作成技法1）
13	コンピュータ実習（コースウェア作成技法2）
14	授業改善のための評価基準
15	まとめ

3. 評価

最終レポート（50%）、課題等の提出物（30%）と授業中の課題への取り組み（10%）、授業への参加度（10%）による総合的な評価とし、60%以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教科書は使用せず。毎時間資料を配布する。授業用フォルダ内に授業用ワークシートを置く。
 【参考書】教育方法Ⅰの教科書、松平信久・横須賀薫編『教育の方法・技術』（教育出版）。

科 目 名	教育相談
担当教員名	上原 行義

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

② 科目の概要

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童理解を欠かすことは出来ない。指導にあたる教師が児童のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切にし、主体的に人とかかわる体験を通して教師を目指して自ら向上しようとする態度を身につける。

③ 学修目標

・学校教育相談とは何か、教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、その意義や課題について考察する。

・学校における生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。

・学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの模擬体験をする。

2. 内容

回	内 容
1	(1) 生徒指導における教育相談の位置づけ
2	(2) 生徒指導の内容と教育相談
3	(3) 生徒理解と生徒指導の方法
4	(4) 問題行動の意味と枠組み
5	(5) 学校における教育相談の意義と特色
6	(6) 学校教育相談の担当者
7	(7) 学校教育相談の基本的考え方
8	(8) 教育相談・カウンセリングの理論
9	(9) 教育相談・カウンセリングの進め方
10	(10) カウンセリングの基本技法
11	(11) カウンセリングの模擬体験(1)
12	(12) カウンセリングの模擬体験(2)
13	(13) 学校教育相談におけるさまざまな手法の活用
14	(14) カウンセリング実習(1)
15	(15) カウンセリング実習(2)・評価とまとめ

3. 評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】長谷川栄、杉原一昭編 『生徒指導と教育相談』教職教育講座第5巻 協同出版
【推薦書】渡辺弥生 『学校だからできる生徒指導・教育相談』 北樹出版 375.2/G
中野武春 『学校教育相談がわかる本』 ぎょうせい 375.2/N
北島貞一 『学級で活かす教育相談』 ぎょうせい 375.2/G

科目名	教育社会学
担当教員名	綾井 桜子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、小学校教諭一種免許状の取得に必要とされる「教科又は教職に関する科目」のうちの一つです。

講義では、いじめ、不登校、学力問題など私たちの身近な教育問題を含め、学校および教育をめぐる現状を社会的な視点から幅広く学びます。

学修目標は次の三つです。①いじめ、不登校、学力問題についての今日的状況を客観的に把握する②そのために必要な資料、文献を読み、理解する③教育問題を複眼的に考察する。

2. 内容

1. イントロダクションー教育を社会の眼差しで見るとは
2. 教育と社会化①ーしつけと社会化、学校と方法的社会化
3. 教育と社会化②ー子どもの社会的自己形成を考える（自己・他者・役割取得）
4. かくれたカリキュラム
5. 学校化社会
6. 現代社会と教育問題①ーいじめの今日的状況
7. 現代社会と教育問題②ー不登校
8. 教育問題へのアプローチーボンド理論と社会的絆への着目
9. 学力問題と階層
10. 学力問題への各国の取り組み①
11. 学力問題への各国の取り組み②
12. 学校をどうみるか①ー機能主義モデル・メリトクラシー
13. 学校をどうみるか②ーコンフリクトモデル・学歴の再生産
14. 課題発表とまとめ①
15. 課題発表とまとめ②

3. 評価

レポート（50点）、課題発表（30点）、授業への参加度（20点）による評価とし、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 荻谷剛彦ほか『教育の社会学＜常識＞の問い方、見直し方』有斐閣
- 【推薦書】 森田洋司『いじめとは何か 教育の問題、社会の問題』中央公論新社
- 森田洋司『「不登校」現象の社会学』学文社、第2版
- 荻谷剛彦『教育と平等 大衆教育社会はいかに生成したか』中央公論新社
- 【参考図書】 稲垣恭子編『子ども・学校・社会ー教育と文化の社会学』世界思想社
- 荻谷剛彦『学校って何だろうー教育の社会学入門』筑摩書房

科目名	教育課程総論 I
担当教員名	岡上 直子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

幼稚園が編成する教育課程とは、幼稚園教育の目標を達成するための教育の内容を総合的に組織した教育計画である。本科目は、教育課程の基本的な考え方について学び、幼児の発達への理解を踏まえつつ、幼児期にふさわしい生活ができるような全体を見通す計画としての教育課程・保育課程の編成と実施について学ぶ科目である。幼児教育の専門科目である「保育内容総論」や「保育内容の指導法」等の具体的内容と関連させて教育課程・保育課程を構造的に理解することを目標とする。

さらに、教育課程改善のためのPDCAサイクルについて学び、幼児教育における教育課程・保育課程の意義と役割について理解する。

②科目の概要

教育課程の意義・役割、指導計画との関連、教育課程・保育課程の編成と実際、学校評価等について講義を中心に学び、具体的な事例・課題等について意見交換・協議しながら理解を深める。

③学修目標

教育課程の全体構造を理解する

教育課程と指導計画の関係を理解する

指導と評価の関係を理解する

教育課程の編成・実施・評価・改善のPDCAサイクルを理解する

2. 内容

回	内 容
1	教育課程の意義と役割、教育課程編成の基本的な考え方
2	保育内容の変遷と教育課程
3	遊びを通しての総合的な指導と幼児の学び
4	保育内容と領域
5	幼児の発達の過程と教育課程の編成（発達の理解とは）
6	幼稚園・保育所における教育課程・保育課程編成の実際
7	教育課程・保育課程の実施と指導計画作成
8	長期指導計画、短期指導計画作成
9	保育における記録と幼児理解
10	保育における評価（指導と評価の関連）
11	様々な行事等に関する年間計画
12	家庭や地域社会との連携
13	子育ての支援
14	教育課程の評価・改善、学校評価の考え方
15	まとめ

3. 評価

授業時の課題への取り組み・意見発表（30点）、筆記試験（70点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合は、再試験を行います。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】小田 豊・神長美津子 編著 「教育課程総論 ー保育の内容・方法を知るー」（北大路書房）

【推薦書】田中亨胤・佐藤哲也 編著 「教育課程・保育計画総論」（ミネルヴァ書房）

科目名	教育課程総論Ⅱ
担当教員名	狩野 浩二

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。
- ② 小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることになります。1年生で学習する「教育学概論」「教育者論」「教育方法Ⅱ」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「概説」や「教材研究」、さらには「教育実習」を学んでいくことになります。
- ③ 各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

2. 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. 教育における“生活”概念の展開
2. 生活綴方の誕生と展開
3. 系統学習と問題解決学習
4. 表現と教育
5. ゆさぶりと何か
6. 展開の契機（事前につくる）
7. 展開の契機（事中につくる）
8. 誤答の真実
9. 想像説明
10. ○○ちゃん式間違い
11. 児童の思考
12. 教師の教材解釈と児童の思考
13. 学習活動を組織する
14. 教師の表現力と授業
15. まとめ

3. 評価

小レポート（20点）とグループ研究（30点）、課題研究（50点）を総合して評価します。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【テキスト（教科書）】 田嶋一他『新版やさしい教育原理』有斐閣、その他配付資料を使います。
- 【推薦書】 斎藤喜博『授業の展開（新装判）』国土社
横須賀薫『授業の深さをはかるもの』教育出版
箱石泰和編『授業＝子どもとともに探求する旅』教育出版
- 【参考図書】 横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	歌唱法Ⅰ
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

②授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

③学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

2. 内容

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：歌唱の意義について
- 第3回：音楽の基礎知識と楽譜の理解
- 第4回：声の仕組み—呼吸器官・発声器官・共鳴器官
- 第5回：発声法と姿勢
- 第6回：ソルフェージュ—読譜力と各種音感の獲得
- 第7回：音楽リズム——ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得
- 第8回：子どもの歌唱作品と表現法
 - ・作品の理解（歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性）
 - ・歌唱の基礎的技術と表現法
- 第9回：子どもの音楽的発達の理解
- 第10回：子どもの音楽と環境
- 第11回：歌唱教材の選択と演習
- 第12回：グループ活動の意義及び事例研究
- 第13回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動（音楽劇）
 - ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案
- 第14回：グループ毎の実践（創意・工夫）
 - ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践
- 第15回：グループ作品発表

3. 評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】
 小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」
 【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法Ⅰ
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

②授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

③学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

2. 内容

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：歌唱の意義について
- 第3回：音楽の基礎知識と楽譜の理解
- 第4回：声の仕組み—呼吸器官・発声器官・共鳴器官
- 第5回：発声法と姿勢
- 第6回：ソルフェージュ—読譜力と各種音感の獲得
- 第7回：音楽リズム——ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得
- 第8回：子どもの歌唱作品と表現法
 - ・作品の理解（歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性）
 - ・歌唱の基礎的技術と表現法
- 第9回：子どもの音楽的発達の理解
- 第10回：子どもの音楽と環境
- 第11回：歌唱教材の選択と演習
- 第12回：グループ活動の意義及び事例研究
- 第13回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動（音楽劇）
 - ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案
- 第14回：グループ毎の実践（創意・工夫）
 - ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践
- 第15回：グループ作品発表

3. 評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】
 小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」
 【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法Ⅰ
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

②授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

③学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

2. 内容

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：歌唱の意義について
- 第3回：音楽の基礎知識と楽譜の理解
- 第4回：声の仕組み—呼吸器官・発声器官・共鳴器官
- 第5回：発声法と姿勢
- 第6回：ソルフェージュ—読譜力と各種音感の獲得
- 第7回：音楽リズム——ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得
- 第8回：子どもの歌唱作品と表現法
 - ・作品の理解（歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性）
 - ・歌唱の基礎的技術と表現法
- 第9回：子どもの音楽的発達の理解
- 第10回：子どもの音楽と環境
- 第11回：歌唱教材の選択と演習
- 第12回：グループ活動の意義及び事例研究
- 第13回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動（音楽劇）
 - ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案
- 第14回：グループ毎の実践（創意・工夫）
 - ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践
- 第15回：グループ作品発表

3. 評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】
 小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」
 【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法Ⅰ
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

②授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

③学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

2. 内容

授業計画

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：歌唱の意義について
- 第3回：音楽の基礎知識と楽譜の理解
- 第4回：声の仕組み—呼吸器官・発声器官・共鳴器官
- 第5回：発声法と姿勢
- 第6回：ソルフェージュ—読譜力と各種音感の獲得
- 第7回：音楽リズム——ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得
- 第8回：子どもの歌唱作品と表現法
 - ・作品の理解（歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性）
 - ・歌唱の基礎的技術と表現法
- 第9回：子どもの音楽的発達の理解
- 第10回：子どもの音楽と環境
- 第11回：歌唱教材の選択と演習
- 第12回：グループ活動の意義及び事例研究
- 第13回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動（音楽劇）
 - ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案
- 第14回：グループ毎の実践（創意・工夫）
 - ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践
- 第15回：グループ作品発表

3. 評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】
 小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」
 【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科 目 名	歌唱法Ⅱ
担当教員名	曾我 淑人

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

「歌唱法Ⅰ」で習得したものは極めて基礎的なもので、この応用編での演習は多岐に亘る。選択科目であるが、保育現場の音楽活動には欠かせない表現方法を学ぶ。

②科目の概要

さまざまなグループ活動を通して歌う、話す、動く、作るなど音楽表現の具体的な方法を学ぶ。人前での自己表現の不得手を解消できる内容となっている。

③学修目標

- 1、音楽的自己能力の開発と表現力の獲得
- 2、作品の理解を深め歌う楽しさを知る
- 3、グループ活動を通して相互協力と信頼関係を築き、人間形成の向上を図る

2. 内容

- 1、オリエンテーション
- 2、発声と音感
- 3、教科書「歌の本」を使用し、表現方法とレパートリーの拡大
- 4、歌唱作品の詩と音楽の理解
- 5、手遊びの意義
- 6、手遊び作品の練習と発表
- 7、合奏の意義
- 8、手作り楽器の製作
- 9、手作楽器作品の練習と発表
- 10、合奏曲の編曲（楽譜作り）
- 11、音楽劇を創る・作品鑑賞
- 12、ストーリー・台本・選曲・演出ほか
- 13、音楽劇の発表
- 14、音楽劇フィードバック
- 15、まとめ

3. 評価

発表（60％）試験（40％）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K
 畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科 目 名	歌唱法Ⅱ
担当教員名	曾我 淑人

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

「歌唱法Ⅰ」で習得したものは極めて基礎的なもので、この応用編での演習は多岐に亘る。選択科目であるが、保育現場の音楽活動には欠かせない表現方法を学ぶ。

②科目の概要

さまざまなグループ活動を通して歌う、話す、動く、作るなど音楽表現の具体的な方法を学ぶ。人前での自己表現の不得手を解消できる内容となっている。

③学修目標

- 1、音楽的自己能力の開発と表現力の獲得
- 2、作品の理解を深め歌う楽しさを知る
- 3、グループ活動を通して相互協力と信頼関係を築き、人間形成の向上を図る

2. 内容

- 1、オリエンテーション
- 2、発声と音感
- 3、教科書「歌の本」を使用し、表現方法とレパートリーの拡大
- 4、歌唱作品の詩と音楽の理解
- 5、手遊びの意義
- 6、手遊び作品の練習と発表
- 7、合奏の意義
- 8、手作り楽器の製作
- 9、手作楽器作品の練習と発表
- 10、合奏曲の編曲（楽譜作り）
- 11、音楽劇を創る・作品鑑賞
- 12、ストーリー・台本・選曲・演出ほか
- 13、音楽劇の発表
- 14、音楽劇フィードバック
- 15、まとめ

3. 評価

発表（60％）試験（40％）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K
 畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科 目 名	児童保健学Ⅱ
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の多様化の中で、これからの保育者は健康な状態の子どもだけでなく、具合が悪くなった子どもやアレルギー疾患、感染症などにも対応せねばならない。本科目では子どもに多い様々な疾患や症状について学習し、将来様々なことに対応できる保育者を目指す。予防接種についての新しい知識は保護者との共通認識として重要となる。児童保健Ⅰを踏まえ、Ⅱではさらに多くの実際的な事項を小児科専門医師の立場から視聴覚をとうして分かりやすく伝えたい。

2. 内容

- 1, 子どもの近視、目の病気
- 2, 皮膚の病気1
- 3, 皮膚の病気2 対応
- 4, 子どもの発達に応じた事故防止 SIDS
- 5, 耳鼻科疾患 中耳炎 へんとう肥大
- 6, 歯科保健
- 7, 最近の予防接種
- 8, ウィルス性感染症1
- 9, ウィルス性感染症2
- 10, 受動喫煙による子どもの病気
- 11, 喘息、アレルギー疾患
- 12, 虐待の発見 児童憲章
- 13, 多胎児の育児
- 14, 授業の復習
- 15, まとめ

3. 評価

定期試験70% レポート20% 授業参加度10% によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合「再試験」を実施する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育園保健協議会編[保育保健の基礎知識] 日本小児医事出版社

[推薦書] 日本外来小児科学会編[お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド] 医師薬出版株式会社

科 目 名	児童保健学Ⅱ
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の多様化の中で、これからの保育者は健康な状態の子どもだけでなく、具合が悪くなった子どもやアレルギー疾患、感染症などにも対応せねばならない。本科目では子どもに多い様々な疾患や症状について学習し、将来様々なことに対応できる保育者を目指す。予防接種についての新しい知識は保護者との共通認識として重要となる。児童保健Ⅰを踏まえ、Ⅱではさらに多くの実際的な事項を小児科専門医師の立場から視聴覚をとうして分かりやすく伝えたい。

2. 内容

- 1, 子どもの近視、目の病気
- 2, 皮膚の病気1
- 3, 皮膚の病気2 対応
- 4, 子どもの発達に応じた事故防止 SIDS
- 5, 耳鼻科疾患 中耳炎 へんとう肥大
- 6, 歯科保健
- 7, 最近の予防接種
- 8, ウィルス性感染症1
- 9, ウィルス性感染症2
- 10, 受動喫煙による子どもの病気
- 11, 喘息、アレルギー疾患
- 12, 虐待の発見 児童憲章
- 13, 多胎児の育児
- 14, 授業の復習
- 15, まとめ

3. 評価

定期試験70% レポート20% 授業参加度10% によって評価し60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合「再試験」を実施する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育園保健協議会編[保育保健の基礎知識] 日本小児医事出版社

[推薦書] 日本外来小児科学会編[お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド] 医師薬出版株式会社

科 目 名	児童保健学実習
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学Ⅰの学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学Ⅱが理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

2. 内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, デンバー式発達表作成
- 14, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15, まとめ 解説

3. 評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
[推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科 目 名	児童保健学実習
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学Ⅰの学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学Ⅱが理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

2. 内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, デンバー式発達表作成
- 14, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15, まとめ 解説

3. 評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
[推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科 目 名	児童保健学実習
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学Ⅰの学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学Ⅱが理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

2. 内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, デンバー式発達表作成
- 14, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15, まとめ 解説

3. 評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
 [推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科 目 名	児童保健学実習
担当教員名	齋藤 麗子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学Ⅰの学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学Ⅱが理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

2. 内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, デンバー式発達表作成
- 14, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15, まとめ 解説

3. 評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
 [推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科 目 名	児童学研究法
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究方法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

②科目の概要

それぞれの研究方法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

③学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究方法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究方法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

2. 内容

まず、児童学の研究方法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究方法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究方法についての理解を深める。

回	内 容
1	児童学の研究方法の種類とその必要性Ⅰ
2	児童学の研究方法の種類とその必要性Ⅱ
3	質問紙法Ⅰ：標準化された質問紙
4	質問紙法Ⅱ：質問紙の作成方法
5	質問紙法Ⅲ：統計基礎
6	検査法Ⅰ
7	検査法Ⅱ
8	観察法Ⅰ
9	観察法Ⅱ
10	面接法
11	事例研究法
12	実践研究
13	記録法
14	児童学研究方法を用いる上での留意点
15	まとめ

3. 評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再試験とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社
【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房
鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房
中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房
大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房
秋田喜代美・藤江康彦（編）『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科 目 名	児童学研究法
担当教員名	大宮 明子、長田 瑞恵

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

②科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

③学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

2. 内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

回	内 容
1	児童学の研究法の種類とその必要性Ⅰ
2	児童学の研究法の種類とその必要性Ⅱ
3	質問紙法Ⅰ：標準化された質問紙
4	質問紙法Ⅱ：質問紙の作成方法
5	質問紙法Ⅲ：統計基礎
6	検査法Ⅰ
7	検査法Ⅱ
8	観察法Ⅰ
9	観察法Ⅱ
10	面接法
11	事例研究法
12	実践研究
13	記録法
14	児童学研究法を用いる上での留意点
15	まとめ

3. 評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再試験とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社
【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房
鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房
中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房
大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房
秋田喜代美・藤江康彦（編）『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科 目 名	児童文化
担当教員名	皆川 美恵子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることにより深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

2. 内容

第1回	児童文化とは何か
第2回	子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
第3回	年中行事と子どもの生活
第4回	子どもの伝承遊び
第5回	子どもの衣服・食事・部屋
第6回	情報化社会と子ども
第7回	伝統玩具（人形も含める）と子ども
第8回	教育玩具、キャラクター玩具
第9回	遊具、公園、遊園地
第10回	わらべ唄、唱歌、童謡
第11回	おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
第12回	紙芝居の世界
第13回	人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
第14回	絵本の世界
第15回	幼年文学の世界

3. 評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童文化—子どものしあわせを考える学びの森—』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科 目 名	児童文学特論
担当教員名	皆川 美恵子、松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「児童文学特論」として、子どもたちを取り巻く物語世界が、どのようなものかを具体的に考察していく。二人の担当者による二部構成で特別講義を進めていくが、前半は、小学校の国語の教科書も編纂している松木により、国語科教材としての児童文学を取り上げる。後半は、皆川により、学校教育場面では取り上げることの少ないと思われる作品を題材にして、子どもの文学の広さと深さについて考察を試みて行く。

2. 内容

前半を松木、後半を皆川と分けて担当する。

- 1回 オリエンテーション 子どもたちを取り巻く児童文学の諸相
- 2回 小学校1年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 3回 小学校2年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 4回 小学校3年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 5回 小学校4年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 6回 小学校5年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 7回 小学校6年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 8回 エリノア・ファージョンの児童文学①
- 9回 エリノア・ファージョンの児童文学②
- 10回 アリソン・アトリーの児童文学①
- 11回 アリソン・アトリーの児童文学②
- 12回 フィリップ・ピアスの児童文学①
- 13回 フィリップ・ピアスの児童文学②
- 14回 ルーマ・ゴッデンの児童文学
- 15回 まとめ 物語を享受する子どもたち

3. 評価

意見発表、討議など授業への積極的取り組み方40%、レポート成績60%によって評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『教科書掲載作品（小・中学校編）』 日外アソシエーツ

科 目 名	児童社会学
担当教員名	皆川 美恵子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

子どもという存在は、日本の伝統的社会においては、多くの人々による関わり合いや見守りの中で成育するものと考えられていた。家庭の中で抱え込むのではなく、社会の中でこそ育つ公的な存在だったのである。よって子どもを育てるには、可愛がるだけでなく「躰」が重要視されたり、家族以外の他者の手、知恵、力添えも必要だと考えられてきた。

かつての日本人が、どのように子どもの社会化を促してきたのか。子どもを家庭から社会へと目を向かわせる文化のしくみについて講義していく。

2. 内容

- 第1回 プロローグ 子どもと社会の境界が曖昧になっている現代社会
- 第2回 大人になるための多様な文化の仕掛け
- 第3回 児童文化からみた仕掛けの多様性
- 第4回 地獄・極楽の絵解きに見る教育
- 第5回 双六遊びにみる人生教育
- 第6回 ことわざ、カルタによる躰
- 第7回 格言、寸言、箴言、かぞえ歌・いろは歌などによる躰
- 第8回 躰の絵本の系譜について
- 第9回 ①「甲子上太郎」の絵本に見る家庭の躰
- 第10回 ②赤ちゃん絵本に見る躰
- 第11回 ③幼年絵本に見る躰
- 第12回 いたずら者、怠け者、悪童物語による躰
- 第13回 ①「三年寝太郎」など日本の怠け者の系譜
- 第14回 ②「ピノキオの冒険」など西欧の悪童物語の系譜
- 第15回 エピローグ 個人と社会の結びつき方について

3. 評価

授業中の発表20%、レポート80パーセントによって成績をつける。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業のなかで、適宜、推薦書を明示する。

科目名	児童福祉論
担当教員名	栗原 直樹

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援及び青少年育成等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

2. 内容

回	内 容
1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	D V法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律野概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

3. 評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房
参考図書 社会福祉六法

科目名	児童英語
担当教員名	島田 美織

1. ねらい (①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan.

2. 内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to 20 students at the most.

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Terminology and the methods
Week 12	Review for the test (or Guest Speaker's Day)
Week 13	Guest Speaker's Day (or Review for the test)
Week 14 & 15	Group presentations & wrap-up activities

3. 評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent participation is required.

4. 教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	国語教材研究Ⅰ
担当教員名	松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①小学校教諭一種習得のための選択科目である。
- ②国語科において学習材を教材として扱うための方法とその実践てきな学びを行う
- ③さまざまな学習歳を知り、それぞれのねらいと指導法を考察する
実際に指導案を作成したり模擬授業をするなど実践を通して学ぶ
研究協議を通して、教材研究の力をつけていく

2. 内容

回	内 容
1	小学校の「国語科」について
2	国語科教材研究とは
3	文学教材の研究 低学年
4	文学教材の研究 中学年
5	文学教材の研究 高学年
6	模擬授業に向けて
7	授業研究の実際
8	説明的な文章の研究 低学年
9	説明的な文章の研究 中学年
10	説明的な文章の研究 高学年
11	表現の学習
12	音声言語の指導
13	言語事項の指導
14	書写の指導
15	まとめ

3. 評価

ミニレポート（2割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（5割）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 国語科（文部科学省）

科目名	国語教材研究Ⅱ
担当教員名	松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①小学校教諭一種習得のための選択科目である。
- ②国語科において学習材を教材として扱うための方法とその実践的な学びを行う
教材研究Ⅰと異なる学習材を扱う
- ③さまざまな学習材を知り、それぞれのねらいと指導法を考察する。
実際に指導案を作成したり模擬授業をするなど実践を通して学ぶ
研究協議を通して、教材研究の力を高める

2. 内容

回	内 容
1	小学校の「国語科」について
2	国語科教材研究とは
3	文学教材の研究 低学年
4	文学教材の研究 中学年
5	文学教材の研究 高学年
6	模擬授業に向けて
7	授業研究の実際
8	説明的な文章の研究 低学年
9	説明的な文章の研究 中学年
10	説明的な文章の研究 高学年
11	「表現」の指導
12	音声言語の指導
13	言語事項の指導
14	書写の指導
15	まとめ

3. 評価

ミニレポート（2割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（5割）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 国語科（文部科学省）

科 目 名	子どもと自然
担当教員名	二宮 穰

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

② 科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

③ 学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

2. 内容

回	内 容
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい、動物とは何か？
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい、植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい、自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

3. 評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）とレポート（70点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布。
【参考図書】 教室で紹介する。

科 目 名	子どもと自然
担当教員名	二宮 穰

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

② 科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

③ 学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

2. 内容

回	内 容
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい、動物とは何か？
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい、植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい、自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

3. 評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）とレポート（70点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布。
 【参考図書】 教室で紹介する。

科 目 名	子どもと自然
担当教員名	二宮 穰

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

② 科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

③ 学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

2. 内容

回	内 容
1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい、動物とは何か？
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい、植物とは何か？
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい、自然事象とは何か？
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

3. 評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物（30点）とレポート（70点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 使用しない。適宜プリントを配布。
 【参考図書】 教室で紹介する。

科 目 名	子どもの科学演習
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野（物理、化学、生物学、地学）に関して、小学校理科で扱う内容に限定せず、理論的な裏づけや根拠を理解することにより、楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

2. 内容

回	内 容
1	リニアモーターカーを教室に走らせよう（電流の働きを調べる）
2	動くおもちゃを工夫しよう。（おもりの働き）
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱（物に光を当てたり，物で音を出したりしてみよう）
5	焚き火の名人（原始人の火おこし術から，木がよく燃える仕組みを考えよう）
6	物の溶け方（きれいな結晶を作ろう）
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう（身近な微生物）
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方（継続観察）
11	波の伝わり方（縦波、横波）
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか（大地のつくりとでき方）
14	星の動きを確かめよう（手作りプラネタリウム）
15	まとめ

3. 評価

毎回の課題に対する提出されたレポート（60%）、授業参加意欲・授業態度（20%）、最終レポート（20%）などから、総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料を適宜配布する

科 目 名	子どもの運動発達論
担当教員名	杉原 隆

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

「子どもの運動発達論」は児童教育学科の専攻科目のなかの選択科目であり、体育教材研究Ⅰ、Ⅱの理論的背景となる科目です。
この講義では、子どもの運動発達の過程とその特徴や、運動に対する意欲の発達について学びます。
学修目標は次の4点です。①生涯発達の視点から運動発達を理解する。②幼児・児童期における運動発達の経過と特徴を理解する。③運動に対する意欲の発達について理解する。④以上の理解に基づいて子どもの運動指導のあり方について考える。

2. 内容

回	内 容
1	発達とは
2	運動発達の伝統的などえ方
3	生涯発達からみた運動
4	発達における成熟と学習
5	運動発達から見た運動能力の構造
6	運動コントロール能力の発達
7	運動体力の発達
8	運動発達の敏感期
9	運動に対する動機づけの発達
10	運動と外発的動機づけ
11	運動と内発的動機づけ
12	運動好きの心理
13	運動嫌いの心理
14	運動経験と精神的発達との関係
15	まとめ

3. 評価

授業内容のまとまりごとに出す課題（80点）、通常の授業態度（20点）。三分の2以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】 杉原隆著 新版運動指導の心理学 大修館書店
杉原隆編著 新版幼児の体育 建帛者
必要に応じて資料を配布

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ
担当教員名	小泉 かおる

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①この科目は1年次履修「子ども家庭福祉Ⅰ」での学びを基に、子どもと子どもを育てる家庭に関する福祉関連施策・及び実際の支援について理解を深める科目です。「社会福祉」「社会福祉援助技術」「養護原理」「養護内容」とも関連性があります。

②変化する子育て環境に対する理解を踏まえ、子どもの権利条約、保育制度、児童養護、子育て支援、少年非行、障害児福祉、国際社会における子どもの福祉など各テーマに関する新たな動向と課題について学びます。後半では受講者が選んだテーマについてレポートを作成し、その内容について発表及び討議を行うことで各テーマに対する理解と考察を深めます。受講者各自の主体的な学びを期待しています。

③目標は次の3点です

- 1 子どもと子どもを育てる家庭に対する福祉関連施策・実際の支援について理解する
- 2 子ども家庭福祉に関する新たな動向や課題について理解する
- 3 自ら選んだテーマを口頭発表し、互いの発表内容について討議し理解と考察を深める

2. 内容

- 1 子ども家庭福祉の課題ー変化する子育て環境
- 2 子ども家庭福祉の理念ー子どもの権利条約と子どもの人権
- 3 子ども家庭福祉における保育制度ー認定子ども園
- 4 児童養護問題ー子ども虐待事例から
- 5 子育て支援ー対策の充実と課題
- 6 少年非行ー刑事司法と児童福祉
- 7 障害児福祉ー現状と新たな動向
- 8 世界の子どもたち①ー国際社会における課題
- 9 世界の子どもたち②
- 10 発表及び討議①
- 11 発表及び討議②
- 12 発表及び討議③
- 13 子ども家庭福祉にかかわる専門職
- 14 子ども家庭福祉の課題
- 15 まとめ

3. 評価

各回ごとの課題作成（10％）口頭発表（20％）レポート（30％）試験（40％）三分の二以上出席することで評価を行います。合格点にみたなかった場合は再試験します。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「児童福祉を学ぶー子どもと家庭に対する支援」松本園子／堀口美智子／森和子 著 ななみ書房

【参考文献】講義内で適宜紹介します。

科 目 名	算数教材研究Ⅰ
担当教員名	増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①「算数概説」「初等算数科指導法」の上に立ち、小学校高学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することによりねらいを置く。さらに後期で小学校6年間を通じた実践と理論としては「算数教材研究Ⅱ」で行う。
- ②算数科（小学校高学年）の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。児童の実態と優れた実践を元に、高学年指導の要点をとらえる。
- ③実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（第4学年の指導のポイント）
2	算数科の指導内容と指導上の留意点（第4学年の指導計画と指導案・模擬授業）
3	数量関係の模擬授業とその評価（第4学年の指導計画と指導案・模擬授業）
4	図形の模擬授業とその評価（第4学年の指導計画と指導案・模擬授業）
5	年間計画と学習指導案の書き方（第5学年の指導のポイント）
6	数と計算の模擬授業とその評価（第5学年の指導計画と指導案・模擬授業）
7	教材研究と学習指導案の作成（第5学年の指導計画と指導案・模擬授業）
8	量と測定の模擬授業とその評価（第5学年の指導計画と指導案・模擬授業）
9	教育機器を利用した授業とその評価（第6学年の指導のポイント）
10	数と計算の模擬授業とその評価（第6学年の指導計画と指導案・模擬授業）
11	量と測定の模擬授業とその評価（第6学年の指導計画と指導案・模擬授業）
12	教育機器を利用した授業とその評価（第6学年の指導計画と指導案・模擬授業）
13	小学校高年の算数科指導における留意点
14	小学校6年間を通じた算数科指導における留意点
15	まとめ

3. 評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、定期試験（20%）により総合的に評価する。60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 9 教科書
- 【教科書】①小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）
- ②学力向上フロンティアスクールの実践10、「算数科コース別指導による確かな学び、4－6年実践編」明治図書
- 【推薦書】①学力向上フロンティアスクールの実践9、「算数科コース別指導による確かな学び、1－3年実践編」明治図書
- ②学力向上フロンティアスクールの実践8、「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」明治図書

科 目 名	算数教材研究Ⅱ
担当教員名	増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①「算数概説」「初等算数科指導法」「算数科教材研究Ⅰ」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、少人数あるいはT Tの加配の教員も含めた指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。
- ②小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解することにねらいを置き、児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を通し要点をとらえる。算数科（小学校6年間）の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。
- ③実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価も行う。

2. 内容

回	内 容
1	基礎・基本を確実に身につけさせる指導のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
2	個に応じた指導のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
3	学力のとらえ方と評価の関係(指導計画、指導案、模擬授業)
4	「一人一人の学力」を向上させる指導のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
5	校内の指導体制と保護者の意識(指導計画、指導案、模擬授業)
6	学校間の研究協力の実際と授業力アップの方策(指導計画、指導案、模擬授業)
7	問題解決指導のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
8	補充的な学習の指導と教材開発のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
9	発展的な学習の指導と教材開発のあり方(指導計画、指導案、模擬授業)
10	発展的な学習の指導の実際(指導計画、指導案、模擬授業)
11	T Tのための指導計画の実際(指導計画、指導案、模擬授業)
12	コース選択とコースガイダンスの実際(指導計画、指導案、模擬授業)
13	学習カードと評価を生かした指導の実際(指導計画、指導案、模擬授業)
14	評価のあり方と工夫の実際(指導計画、指導案、模擬授業)
15	まとめと振り返り

3. 評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80％）、定期試験（20％）により総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】①小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）
 ②学力向上フロンティアスクールの実践9「算数科コース別指導による確かな学び、1－3年実践編」明治図書
 ③学力向上フロンティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び、4－6年実践編」明治図書
 【推薦書】学力向上フロンティアスクールの実践8「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」明治図書

科 目 名	初等体育科指導法
担当教員名	山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次履修の「人間と運動」、「子どもと運動」とも関連性が深い。

② 科目の概要

内容の項目に示した4つの観点から授業を展開して、子どもの身心の発達と運動技能の向上についての理解と指導技術を学ぶ。

③ 学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

2. 内容

回	内 容
1	体育科の定義および体育授業を取り巻く制度的な条件の概要
2	体育科の目標・内容・その取扱いについて（領域別・学年別）
3	体育科の授業づくり① : 授業づくりの構造的な理解
4	体育科の授業づくり② : 指導計画と指導案作成の手順
5	体育科の授業づくり③ : 学習過程と指導技術の関連
6	体育科の授業づくり④ : 学習場面の設定と補助法のポイント
7	運動領域別の指導法① : 器械運動・体づくり運動 *実技も行う
8	運動領域別の指導法② : ボール運動 *実技も行う
9	運動領域別の指導法③ : 陸上運動・表現運動 *実技も行う
10	運動領域別の指導法④ : 水泳（DVDの活用）・保健
11	模擬授業①
12	模擬授業②
13	模擬授業③
14	保健学習のポスター発表
15	まとめ

3. 評価

発表活動（30点）、レポート（30点）、試験（30点）、通常の授業態度（10点）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
 小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年」
 光文書院 「新版 小学保健 見つけよう健康 5・6年」 光文書院
 【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科 目 名	初等図画工作科指導法
担当教員名	瀧田 節子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①科目の性格
「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」と、学習指導要領の第1目標に示されている。その〈感性〉とは、感覚器官を駆使して感じることで、イメージを広げて考え、思いを広げること、そして造形行動することである。
身近にある素材から子ども達の造形行動を引き出すことは、日常の授業のためばかりではなく、他の児童(友達)の良さに気づいたり共感できたりする人間力も育てることになる。また、造形行動に潜んでいる内的な世界、情動的な営みも受け止めることができる事が教材研究として重要である。そうした視座に立ち、身近な素材を教材化することを演習も絡めて実践し理解を深めていく。
- ②科目の概要
小学校図画工作科を指導するにはどうすべきか、図画工作美術教育の変遷や学習指導要領に示された目標と内容を読み解きながら、あるいは、映像視聴やディスカッション、模擬授業などを取りいれながら、具体的実践的に学んでいく。あわせて、各領域の実技の基礎基本を習得する
- ③学修目標
小学校における子どもの姿を想定し、図画工作科の目標と学習内容領域の理解を広げ、図画工作科指導に関する知識と具体的な指導法を習得する。

2. 内容

子どもの表現を理解し、支えることのできる教師を目指して、学習指導案の作成や、評価、支援の方法などについて実践的に学び、図画工作科指導に関する知識と具体的な指導法を習得する。

回	内 容
1	「図画工作科教育の意義」映画視聴や学習指導要領解説書により教科目標を考察。
2	「造形遊びの実際」身近な素材での演習を通して内容A(1)について共感的理解。
3	「教育の変遷と子どもの表現」作品や活動事例、テキストをもとに語り合う。
4	「絵や立体、工作に表す活動」両刃鋸で合板を切り分け教材作成。彫刻刀実習。
5	「絵に表す活動」木版画演習①版画用具一式を正しく安全に扱い、制作。
6	「絵に表し鑑賞する活動」木版画演習②版画制作と評価。作品を相互鑑賞。
7	「工作に表す活動」木工作演習①蝶番を使い用途を考えた構想をし、木取りする。
8	「工作に表す活動」木工作演習②電動糸鋸機や錐、ねじ回しなど木工具を用いる。
9	「工作に表す活動」木工作演習③電動糸鋸機などで制作と評価。作品の相互鑑賞。
10	「指導と評価、指導案の実際」観点別評価の理解。学習指導案の作成について
11	「指導案の作成」共通の観点を基にグループで意見を出し合い学習を組み立てる。
12	「指導案の検討」共通の観点を基に意見を出し合い学習を検討する。
13	「模擬授業1」共通の観点を基に意見を出し合い授業の進め方等を検討する。
14	「模擬授業2」共通の観点を基に意見を出し合い授業を検討し自分の考えを持つ。
15	「鑑賞する活動の実際」創造的な鑑賞活動の映像や演習を通し内容Bを理解する。

3. 評価

感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(40%)。そのスケッチブックによって造形行動を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(30%)。授業内テストによる評価 (30%)。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 (日本文教出版)
推薦書 鈴石弘之ほか 「学校で用いる文具・道具の使い方 早わかり」 (小学館)

科 目 名	初等国語科指導法（書写を含む）
担当教員名	松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①小学校教諭一種を取得するための必修科目である。
- ②初等教育におけることばの学びの意義と「国語科」の位置づけを指導者の視点でとらえる。
具体的な指導法について理論を知り、実践的を通して学ぶ。
- ③「ことばの学び」「国語科」の意義を学習指導要領を参考に考察する。
具体的な国語の指導法をしり、これからの実践に役立てようとする。
さまざまな指導法を学ぶ。

2. 内容

回	内 容
1	幼稚園の「ことば」と国語科
2	国語科教育の変遷
3	国語科教育の現在
4	「伝え合う力」－話すこと・聞くこと
5	「読む力」をつける 読み取りのための理論
6	「読む力」をつける 物語文
7	「読む力」をつける 説明的な文章
8	「読む力」をつける 詩、古典
9	「書く力」をつける 作文教育の理論
10	「書く力」をつける 具体的な活動から
11	単元学習とは
12	言語活動（書写を含む）
13	言語活動（書写を含む）
14	国語教室の実際から
15	まとめ

3. 評価

講義ごとにミニレポート（2割）、実践参加の状況（2割）、最終レポート（6割）

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領（文部科学省）・小学校学習指導要領解説 総則編、国語科（文部科学省）

科目名	初等家庭科指導法
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また教科書の内容から調理実習や被服製作など実際に体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りも行い模擬授業の経験も取り入れるようにする。

2. 内容

- 1、本授業のガイダンス
 - ①授業計画、準備するもの、評価など
- 2、家庭科の教科書を見て5,6年生の2年間に授業で扱う内容を把握する。
 - ②児童の視点で教科書を見て気づいたことを話し合ってみる。
 - ③教師の視点で再度教科書を見てどのような働きかけができるかいくつかの事例について話し合う。
 - ④学習指導要領を見直し、どの教材がどのような形で取り上げられているか照合してみる。
- 3、指導法の研究
 - ⑤指導してみたい題材を見つけ指導案を書いてみる。
 - ⑥互いに発表し合ってみてよいところや問題点を話し合う。
 - ⑦代表が模擬授業を行い、授業の進め方の改善点を話し合う。
- 4、実際に実習をする。
 - ☆⑧～⑪食領域から調理実習3回
 - ⑧3回の調理実習の計画を立てる
 - ⑨調理実習（1）グループの計画ごとのおやつ作り
 - ⑩調理実習（2）グループの計画ごとの野菜を使った料理
 - ⑪調理実習（3）グループの計画ごとの出汁やスープの汁物の料理
 - ☆⑫～⑮衣領域からミシンを使って被服製作
 - ⑫衣服領域の内容から製作の指導 ミシンで縫う練習、エプロンの型紙作り
 - ⑬ミシン練習 布を裁つ
 - ⑭～⑮ミシンでエプロンを縫う、完成したエプロンを付けて見合い、まとめをする。

◎実習室使用の関係で授業内容が入れ替わることがある。

3. 評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表等で25%程度を総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書 開隆堂出版、小学校指導要領解説 家庭科編 文科省
 【推薦書】家庭科はおもしろい 牧野カツコ監修 国土社、授業力UP家庭科の授業 鶴田敦子編著 日本標準、家庭科の底力 作る手が子どもたちを輝かす お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社、小学校家庭科教育研究 教師養成研究会家庭科教育学部会編著 学芸図書、家庭科ワークノート 食生活と自立 大神田徳子 地域教材社
 【参考図書】ティーンガイド 2冊 牧野カツコ監修、家庭科再発見 堀内かおる編著 開隆堂

科 目 名	初等理科指導法
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は小学校教員の免許状取得のための必修科目である。「理科」について、興味関心を高め、基本的概念や低利法則などを系統的構造的にとらえ、科学的自然観を養う。児童の理科離れ傾向の強い今日、教師が理科という教科の特性を認識し、児童が自然の事物現象に対して関心を持ち働きかけができるように仕向けて行きたい。小学校理科A物質・エネルギー、B生命・地球の各内容を教科書から具体的に取り出して、できる限り楽しく生活化して「わかる理科」として小学校現場に照らした内容で授業を進める。児童が理科を嫌いにならないように、実験も身近な現象から考えられるような習慣を身につけてもらいたい。そのために、教師自身が身近な現象にも疑問や問題意識をもって考え、追究しようとする態度をもってほしい。

2. 内容

回	内 容
1	初等理科教育の現状と課題
2	教職と小学校理科、理科の目的、基本と基礎、関心と興味について（学習指導要領理科編）
3	学習指導案の作成（指導案の目的、構成要素など）
4	実験・観察の進め方とまとめ方
5	小学校理科A領域の目標と内容（板書計画、発問、ワークシートの作成）
6	児童中心のカリキュラムからみた理科授業のあり方
7	理科授業における安全教育（小学校理科実験での事故例と対応）
8	理科における構成主義的学習論に基づく指導法
9	小学校理科B領域の目標と内容（板書計画、発問、ワークシートの作成）
10	学習指導案の作成と模擬授業
11	地学分野の授業校生と追究活動の仕組み方
12	理科学習におけるICT活用授業と指導技術
13	理科におけるポートフォリオ評価（理科学習における目標と評価の仕方）
14	理科模擬授業の反省と評価の仕方
15	まとめ

3. 評価

授業中に行う課題に対する評価（40％）、提出された学習指導案に対する評価（20％）、授業態度など授業に対する意欲（20％）、まとめのレポート（20％）を総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）
【参考書】 未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科 目 名	初等生活科指導法
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

小学校生活科をどのように低学年児童に指導すればよいかを具体的な実践を踏まえて行う。幼稚園・保育所と小学校の連携をはかり、幼稚園要綱や小学校学習指導要領に基づいて生活科のねらいや目標、指導内容を押さえる。また、指導力を高めるために協力して活動指導案作成や模擬授業を行い、さらに児童の実践体験の一部も加えて理解を深める。

2. 内容

- 1、ガイダンス及び生活科の特徴と関連
 - ①生活科の誕生と幼小関連の重要性
 - ②小学校低学年に位置づいている理由と教科の特性
- 2、生活科教科書を読み解き具体的な学習内容の構成を知る。
 - ③年間指導計画について
 - ④2年間の学習内容の流れの事例を教科書から大単元に起こしてみる。
 - ⑤具体的な観点別の活動内容をグループで相談し分担しあって指導案を作成する。
 - ⑥グループ内で相互に模擬授業を行い評価し合う。
 - ⑦全体で模擬授業を試行し、指導法のポイントを押さえる。
- 3、小学校生活科の実践について指導法を考えながら実習する。
 - (1) 自然とのかかわりから
 - ⑧キャンパス畑の観察や種まき収穫を体験する。
 - ⑨飼育栽培について学び具体的な活動を考える。
 - (2) どのような活動ができるか考えながら、実際大学外に出て新座町探検をする。
 - ⑩事前のアポイントの取り方を知り相手と訪問の承諾や連絡確認をする。
 - ⑪調査方法やまとめを方を相談し実際に町探検に出かける。
 - ⑫～⑬表現方法を工夫し、探検に関する作品を1点仕上げる。（例 マップ、冊子、紙芝居等）
 - ⑭全体で発表し合う
- 4、評価について
 - ⑮全体を振り返って学習指導案確認やまとめをする。

3. 評価

毎回の課題75%程度、実習や作品25%程度で総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校生活科教科書 東京書籍、小学校学習指導要領解説 生活科編 文科省
 【推薦書】生活科事典 東京書籍 これからの生活・総合 田村学、嶋野道弘編著 東洋館【参考図書】授業内で提示する

科 目 名	初等社会科指導法
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。
教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。
- ② 科目の概要
・社会科の目標、各学年の教育の目標・内容・などについて理解を深める。
・学習内容の系統性や年間指導計画、単元の構成、指導方法について、具体的な実際例などを活用しながら理解を進める。
・小単元を取り上げ、指導計画の作成及び1時間の指導案を作成し、模擬授業に取り組み、実際の社会科学習指導に向けての実践力を高める。
- ③ 学修目標
・社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組める実践力を養う。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・暮らしと人々の仕事・安全な暮らしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよい暮らしを支える・郷土の人々の願い・私たちの埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり（1）
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり（2）
13	社会科の模擬授業の実際（1）
14	社会科の模擬授業の実際（2）
15	社会科の模擬授業の実際（3） ・まとめ

3. 評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点、等を総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考図書
- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 児童用教科書
 - ・ 教科書の教師用研究物

科 目 名	初等算数科指導法
担当教員名	増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①「算数概説」の上に立ち、小学校低学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。小学校高学年は「算数教材研究法Ⅰ」で行い、さらに、「算数教材研究法Ⅱ」へと発展していく。

②算数科（小学校低学年）の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。

③実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（第1学年の指導のポイント）
2	算数科の指導内容と指導上の留意点（第1学年の指導計画と指導案）
3	年間計画と学習指導案の書き方（第2学年の指導計画と指導案）
4	図形の模擬授業とその評価（第1学年「かたちあそび」）
5	数量関係の模擬授業とその評価（第2学年の指導のポイント）
6	数と計算の模擬授業とその評価（第2学年「100より大きい数」）
7	量と測定の模擬授業とその評価（第2学年「長さをはかる」）
8	教材研究と学習指導案の作成（第2学年「かけざん」）
9	教育機器を利用した授業とその評価（第3学年の指導のポイント）
10	数と計算の模擬授業とその評価（第3学年「わりざん」）
11	量と測定の模擬授業とその評価（「重さ」）
12	教育機器を利用した授業とその評価（「時刻と時間」）
13	小学校低学年の算数科指導における留意点
14	小学校高学年の算数科指導における留意点
15	振り返りとまとめ

3. 評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、試験（20%）で評価。60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】（1）小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）
（2）学力向上フロンティアスクールの実践9「算数科コース別指導による確かな学び、1－3年実践編」明治図書

【推薦書】（1）学力向上フロンティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び、4－6年実践編」明治図書

（2）学力向上フロンティアスクールの実践8「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」明治図書

科 目 名	初等音楽科指導法
担当教員名	清水 玲子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。またその知識を生かして、小学校における音楽教育の指導力をたかめることを目指す。

2. 内容

回	内 容
1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論（譜表・派生音について）
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論（和音について）
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論（音程について）
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論（調について）
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論（発想記号について）
9	3年生の音楽 楽器（リコーダー）
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

3. 評価

毎回の課題（40点）、試験（50点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔テキスト〕 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版
 〔参考図書〕 「音楽科指導書 音楽編」（文部科学省） 「初等科音楽教育法」（音楽の友社）

科 目 名	図画工作教材研究 I
担当教員名	瀧田 節子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

実習や教材研究を経験することを通して、小学校の図画工作科の授業を担当するうえで大切な資質となる、造形の楽しさやよさへの理解を図る。

②科目の概要

身近な素材を教材化することを、粘土の焼成を含めて演習する。学習指導要領が示す造形活動をする活動、立体に表す活動、工作・鑑賞等の諸領域の実技の基礎基本を理解・研究し、習得する。

③学修目標

実際の制作を通して、身近な材料・用具の基本的な扱い方を身につけ、自ら造形表現の喜びや楽しさを味わうとともに、小学校図画工作科の目標や内容及び特性への理解を深めることができる。

2. 内容

授業は絵具や粘土などでの制作演習が中心になる。

主体的な取り組みで造形表現の楽しさを味わい、子どもの表現を理解し支える教師を目指す。

- 1 ガイダンス＋材料の特徴から造形遊びをする活動（草や花や小石で）
- 2 かかわりを感じながら造形遊びをする活動（布やひもで）
- 3 粘土でつくろう①丸めて、伸ばして、叩いて、可塑性に親しむ・
- 4 粘土でつくろう②高学年の焼き物を知ろう・
- 5 粘土でつくろう③低学年の焼き物を知ろう・
- 6 粘土でつくろう④ろくろに挑戦
- 7 粘土でつくろう⑤うわぐすりの働きを知ろう・
- 8 粘土でつくろう⑥窯詰めをしよう
教科書の粘土題材を見てみよう。題材の考え方を子どもの姿と教師のあり方から語り合う
- 9 粘土でつくろう⑦窯出しをして鑑賞しよう
- 10 身近な素材を生かして表現する①
- 11 身近な素材を生かして表現する②
- 12 身近な素材を生かして表現する③
- 13 感性をはぐくむ「絵具の不思議」
- 14 「絵具の不思議」から、絵や立体に表す活動①
- 15 「絵具の不思議」から、絵や立体に表す活動②

3. 評価

感じ考えたことや演習で分かったことをまとめたスケッチブック（40％）。授業への取り組み態度と意欲（30％）。実技課題の作品、レポート（30％）。試験は行わない。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に指定しない。

適宜資料を提示、配布する。

科目名	図画工作教材研究Ⅱ
担当教員名	瀧田 節子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

実習や教材研究を経験することを通して、小学校の図画工作科の授業を担当するうえで大切な資質となる、造形の楽しさやよさへの理解を図る。

②科目の概要

身近な素材を教材化することを、粘土の焼成を含めて演習する。学習指導要領が示す造形活動をする活動、立体に表す活動、工作・鑑賞等の諸領域の実技の基礎基本を理解・研究し、習得する。

③学修目標

実際の制作を通して、身近な材料・用具の基本的な扱い方を身につけ、自ら造形表現の喜びや楽しさを味わうとともに、小学校図画工作科の目標や内容及び特性への理解を深めることができる。

2. 内容

授業は絵具や粘土などでの制作演習が中心になる。

主体的な取り組みで造形表現の楽しさを味わい、子どもの表現を理解し支える教師を目指す。

- 1 ガイダンス＋材料の特徴から造形遊びをする活動（草や花や小石で）
- 2 かかわりを感じながら造形遊びをする活動（布やひもで）
- 3 粘土でつくろう①丸めて、伸ばして、叩いて、可塑性に親しむ
- 4 粘土でつくろう②高学年の焼き物を知ろう
- 5 粘土でつくろう③低学年の焼き物を知ろう
- 6 粘土でつくろう④ろくろに挑戦
- 7 粘土でつくろう⑤うわぐすりの働きを知ろう
- 8 粘土でつくろう⑥窯詰めをしよう
教科書の粘土題材を見てみよう。題材の考え方を子どもの姿と教師のあり方から語り合う
- 9 粘土でつくろう⑦窯出しをして鑑賞しよう
- 10 身近な素材を生かして表現する①
- 11 身近な素材を生かして表現する②
- 12 身近な素材を生かして表現する③
- 13 感性をはぐくむ「絵具の不思議」
- 14 「絵具の不思議」から、絵や立体に表す活動①
- 15 「絵具の不思議」から、絵や立体に表す活動②

3. 評価

感じ考えたことや演習で分かったことをまとめたスケッチブック（40％）。授業への取り組み態度と意欲（30％）。実技課題の作品、レポート（30％）。試験は行わない

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に指定しない。

適宜資料を提示、配布する。

科目名	女性教師論
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本授業は教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、教員に求められる資質能力等を広く理解し、自ら女性としてどのような教員を目指していくかの指針となるような内容で構成する。男女平等参画型社会の中で職業人としての教員の仕事に関する情報を伝えると共に、自立した教員として確固たる信念をもって臨めるよう支援する。

2. 内容

大きく以下の3つの観点を盛り込み、講義や話し合いを交えて授業を構成する。

（1）将来女性教師を志す学生にこれまであまり触れてこなかった人権やジェンダーフリーの視点を視聴覚教材や資料を用いて理解させ自覚させる。

○ベアテシロタのVTR前半から憲法草案（25条）に女性の視点でかかわったことを学ぶ。

○後半を視聴し、アメリカの女性が日本の女性の人権に心を砕いたことを知る。

○VTR等を視聴したり資料を読んだりして学校教育におけるジェンダーについて触れる。

○資料から諸外国の教育の現状と日本を比較しこれからの教育を考える。

（2）これまで日本の教育に偉大な足跡を残してきた女教師を取り上げ、教育史的視点の関心をも持たせる。

○十文字ことの「春風のように」を視聴して当時の女教員養成や女教員について学ぶ。

○大村はまの著作の一部を読んで教師としての大村はまを分析する。

○女教師の著作物を読んで管理職とのかかわりや女性管理職の資質を考える。

（3）小学校の現場でさまざまな学習・生活指導にどのようにかかわり対処してきたかの体験を交えて学校現場の実態に関心を持たせ、自分なりの考えをもって捉えさせる。

○女性の視点で教師を捉えると言う本講座の概要、これまでに心に残った教師について作文する。

○仲間の文章紹介と補足や質疑、教員の資質について分析し伝える。作文の紹介は数回に分けて扱う。

○担当者の経験も交えて女教師に欠かせないみがいていく資質を考える。

○学生同士2月に新座市の小学校にボランティアに行っ様々な教師に出会った経験談を交流する。

○新任女教員の講演会記録等を読み合って教員採用試験に向けての準備等を学ぶ。

○教職の意義と職務について再度参考資料を読み、話し合う。

○いじめや不登校の現状や対応についての経験を語り合い、さまざまな解決方法を探る。

○まとめ

（1）（2）（3）の順番でなくそれぞれを織り交ぜて進める。

3. 評価

授業中の課題60点、まとめ40点で総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】教科書は使用せず配布資料を用意する。【参考図書】授業中に紹介する。

科 目 名	情報教育論
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるといったものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

2. 内容

回	内 容
1	情報とは何か（情報研究の歴史）
2	情報概念（情報の5つの特性）
3	コミュニケーションと教育メディア（文字・ことば・文章、情報のデジタル化）
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方（学校教育における位置づけ）
6	情報教育の目標（3本柱）
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践（ICT活用能力）
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	学生によるプレゼンテーション
14	学生によるプレゼンテーション
15	まとめ

3. 評価

授業中に行う課題に対する評価（30%）、課題レポートに対する評価（30%）、テスト（30%）、授業への参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科 目 名	書写・書道文化
担当教員名	小口 かおり

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ①この授業では、小学校国語科「書写」の授業担当者としての基礎的・基本的な技能・資質を身につけることを目標とする。
- ②小学校国語科「書写」に関する内容・取り扱いなどの知識及び技能（硬筆・毛筆）並びに学習指導法を習得できるよう、講義・実技指導を行う。
- ③小学校の学習指導に必要な知識・技能を高め、その学習指導法に関する理解を深める。
- 1, 小学校国語科「書写」の目標・内容・方法を理解して授業を組み立てることができる。
 - 2, 授業展開に必要な教具の活用法を理解する。
 - 3, 教材研究の方法を理解し、指導に役立てることができる。

2. 内容

回	内 容
1	「書写」の意義・ねらい・内容
2	姿勢・執筆法・用具用材とその扱い方
3	基本点画と筆使い
4	文字の中心と概形、点画の方向
5	文字の組み合わせ方、点画の接し方・交わり方
6	文字の組み合わせ方、左右からなる文字
7	文字の組み合わせ方、上下からなる文字
8	文字の組み合わせ方、内外からなる文字
9	文字の大きさと配列・字配り
10	平仮名・片仮名
11	書き初め
12	実用書式（ポスター・案内状・手紙の書き方）
13	様々な書式と筆記具の選択
14	学習指導案の作成
15	まとめ

3. 評価

12／15以上の出席
レポート（30%）
技能の習得についての毎時の課題提出物（70%）
60点以上を合格とする

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「明解 書写教育」改訂版（全国大学書写書道教育学会編）萱原書房
「漢字指導の手引き」（教育出版）

科 目 名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当教員名	上原 行義

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

② 科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

③ 学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

2. 内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

回	内 容
1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実践(1) 子どもの気持ちをつかむ指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実践(2) 思いを伝えづらい雰囲気改善の指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 進路指導の方法と指導計画
15	15. 学習のまとめ

3. 評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川玖成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書
【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所
新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会
仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	社会教材研究Ⅰ
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
社会科における教材の見方・考え方を養い、指導方法のあり方等を考察し、教科指導力の向上をねらう科目である。
- ② 科目の概要
・小学校社会科の教材を取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいを持ち、どのように児童に学習指導させていくか、教材を作成し、教材のあり方・資料の取り扱い等について検討し深める。
- ③ 学修目標
・学習活動のねらいに沿い、学習教材のとらえ方をより一層深める。

2. 内容

○ ガイダンス

1. 教材研究1

- ・ 取り上げる教材の選定。学習のねらいの設定
- ・ 教材研究活動に取り組む
- ・ 学年、教材に合わせた教材作り
- ・ 教材研究した教材についての報告及び検討

2. 教材研究2（校内のもの、身近な地域について教材化する）

- ・ 教材とするものの選定。学習のねらいの設定
- ・ 現場、現地で調べる。資料の収集
- ・ 学習に使用できる収集素材の教材化に取り組む
- ・ 教材化について報告及び検討会の実施

3. まとめ

3. 評価

課題報告（レポート）等の提出物60点、授業への取り組み40点、により総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

○ 参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校児童用教科書
- ・ 教師指導用の研究物

科目名	社会教材研究Ⅱ
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
社会科学学習指導における資料の活用力の向上をとおして、教師としての教科指導力の向上をねらう科目である。
- ② 科目の概要
 - ・ 児童の学年を想定しながら、その学年に適した資料を作成したり読み取りをしたり指導の実際を想定したりしながら、授業展開と児童の受け止め方、考え方などを考察し、より良い資料活用のある方を追究していく。
 - ・ 教師としての社会科学学習指導における「資料活用力と指導力」を養い高める。
- ③ 学修目標
 - ・ 社会科学学習指導における資料活用を中心として、学習指導力の向上をねらいとする。

2. 内容

- ガイダンス
 - 1 社会科学学習における資料の果たす役割
 - 2 身近な地域教材の活用
 - ・ 3・4学年で取り扱われる身近な地域にある教材
 - ・ 学習教材として活用できる素材を身近な場所から探し、新たに教材化を図る。
 - 3 地理的内容の教材・資料の活用
 - ・ 地図を使った資料の表し方の工夫とその作成及び活用方法
 - ・ 地図を使った統計資料の表し方
 - ・ 地図を使って統計的な面的変化を表し読み取る。
 - 4 歴史的内容の教材・資料の活用
 - ・ 年表形式を使った資料の表し方の工夫
 - ・ 年表を使って変遷のようすを分かりやすく表す工夫
 - ・ 年表から事象と事象の関連性を読み取る。
 - 5 統計資料の分かりやすい表現方法の工夫
 - ・ グラフや図表を使った統計資料等の表し方
 - 6 まとめ

3. 評価

課題レポート等の提出物60点、授業への取り組み40点、により総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考図書
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
 - ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 小学校社会科児童用教科書

科目名	社会概説
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。
- ② 科目の概要
 - ・小学校の教科としての「社会」の目標及び各学年の学習内容を理解する。
 - ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
 - ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。
- ③ 学修目標
 - ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
 - ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
2	低学年の生活科とのかかわり 学習内容とのかかわり
3	中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
4	高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
5	社会科学習における地理的内容（1）
6	社会科学習における地理的内容（2）
7	社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
8	社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
9	社会科学習における歴史的内容（1）
10	社会科学習における歴史的内容（2）
11	社会科学習における図表の活用（3） 年表の見方・活用の仕方
12	日本歴史年表を作る 歴史上の出来事を年表に表し、年表上で考える
13	社会科学習における公民的内容（1）
14	社会科学習における公民的内容（2）
15	まとめ

3. 評価

課題レポートなどの提出物 60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等） 40点、により総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考図書
 - ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
 - ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	社会福祉援助技術
担当教員名	向井 美穂

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置付けられています。保育の場において展開される社会福祉援助技術について理解していくことを目指します。そのために「社会福祉援助技術の概要」「社会福祉援助技術の方法と専門的技術」「社会福祉援助技術の具体的展開」「保育における社会福祉援助技術の応用と事例」について理解していきます。また保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、グループディスカッションやグループワークを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求めます。そのため、グループディスカッションやグループワークに受講生が積極的に参加することが必要となります。

2. 内容

1. 社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）とは（1回）
2. 保育者と社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）について
－直接援助技術と間接援助技術－（1回）
3. 個別援助技術（4回）
 - ①意義
 - ②原則と展開
 - ③面接、記録、評価
 - ④保育における実践例に学ぶ
4. 集団援助技術（4回）
 - ①意義
 - ②原則と展開
 - ③保育における実践例に学ぶ
5. 地域援助技術（3回）
 - ①意義と可能性
 - ②原則と展開
 - ③保育における実践例に学ぶ
 - ④プログラムを計画してみよう
6. 関連援助技術
7. まとめ

3. 評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度（30点）、授業内でのレポート（20点）、最終課題（50点）により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：桐野由美子編著「保育者のための社会福祉援助技術」樹村房

科 目 名	身体表現基礎
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす…仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める…身体部位
4	＜基本的な運動から身体表現へ＞ 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	＜身近な遊びから身体表現へ＞ 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ～のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	＜保育者にふさわしい身体づくり＞リズムカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

3. 評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	身体表現基礎
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす…仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める…身体部位
4	＜基本的な運動から身体表現へ＞ 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	＜身近な遊びから身体表現へ＞ 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ～のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	＜保育者にふさわしい身体づくり＞リズムカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

3. 評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科 目 名	身体表現基礎
担当教員名	仁井田 千寿、坪倉 紀代子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす…仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める…身体部位
4	＜基本的な運動から身体表現へ＞ 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	＜身近な遊びから身体表現へ＞ 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ～のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	＜保育者にふさわしい身体づくり＞リズムカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

3. 評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科 目 名	身体表現基礎
担当教員名	仁井田 千寿、坪倉 紀代子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（平服、筆記用具持参）
2	心身を解きほぐす…仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める…身体部位
4	＜基本的な運動から身体表現へ＞ 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	＜身近な遊びから身体表現へ＞ 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ～のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	＜保育者にふさわしい身体づくり＞リズムカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

3. 評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科 目 名	障害児保育
担当教員名	柳本 雄次

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育に関連する史的発達、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応について、を学ぶ。

学修目標は、①障害児保育の実態と課題を理解すること、②障害の特性と支援について理解すること、③気になる子どもの個別の支援計画について理解すること、である。

2. 内容

回	内 容
1	障害児保育とは（関連する用語・概念の整理）
2	障害児保育の歴史と現状
3	人間発達における乳幼児期の重要性
4	障害児保育の場の特徴(1) 特別支援学校幼稚部・療育機関
5	障害児保育の場の特徴(2) 幼稚園・保育所
6	障害児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1) 視覚障害・聴覚障害
8	障害特性の理解と支援(2) 知的障害・肢体不自由・病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3) 発達障害
10	気になる子どもとは、その対応
11	指導事例からみた障害児保育
12	個別の支援計画ー個別の家庭支援計画ー
13	連携事例からみた障害児保育
14	障害児保育における今後の課題
15	まとめ

3. 評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】 特に指定しません。

【参考図書】 本郷一夫編著『障害児保育』建帛社、伊勢田亮他編『障害のある幼児の保育・教育』明治図書

【その他】 必要に応じて随時授業で紹介します。

科 目 名	食指導論
担当教員名	小谷 スミ子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

私たち人間が生きていくためには「食」は欠かせない。また、子どもたちが健全な食生活を実践することは、健康で豊かな人間性を育んでいく基礎となる。そして、生涯にわたり健全な食生活の実現を可能とし、心身の健康を確保するものである。子どもへの食育は知育、徳育および体育の基礎と位置づけられ、そのため様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を学習させなければならない。

ここでは、小学校教員として「食」に関する指導のために必要な基礎的・基本的な食の知識を学ぶ。また、小学生の食生活の現状や問題点を把握し、それらを改善するための考え方や指導について理解する。

2. 内容

- 1回 食指導論とは（食育基本法を含む）
- 2回 子どもの生活習慣について（健康の3原則）
- 3回 子どもの生活環境
- 4回 子どもの生活環境と食環境
- 5回 子どもの体力の現状と食の関係
- 6回 子どもの食生活の現状と問題点（朝食欠食・個食・孤食など）
- 7回 子どもの食生活の現状と問題点（偏った栄養摂取・ダイエット・肥満など）
- 8回 食文化からみた食教育
- 9回 食嗜好と食習慣の関係
- 10回 食の安全性の確保について（食品表示・食中毒など）
- 11回 学校給食について
- 12回 子どもの食に関する最近のトピックス
- 13回 具体的な食指導の例（1）
- 14回 具体的な食指導の事例（2）
- 15回 まとめ

3. 評価

期末テスト60点、レポート30点、講義への参加度10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる・平岩幹男著『やさしく学べる子どもの食』診断と治療社【推薦書】適宜紹介する

科目名	乳児保育Ⅰ
担当教員名	帆足 暁子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育Ⅱ」の科目の基盤となる。

②科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を保育することになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書の「おおむね6ヶ月未満」の発達において「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育の専門的な知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができる内容ような授業内容としている。

③学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目標とする。

2. 内容

乳児を対象とした絵本を毎時間紹介し、乳児の視点を体験しながら講義をすすめる。

1. 乳児保育の意義

①現代の社会環境 ②乳児保育の必要性 ③保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

①精神面の発達 ②身体面の発達 ③新生児反射と運動発達 ④言語の発達

3. 乳児の生活

①生活リズム ②睡眠・覚醒 ③排泄 ④摂食 ⑤清潔 ⑥遊び ⑦その他

4. コミュニケーションの発達

①保育者と乳児のかかわり ②乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

①指導計画 ②個別の指導計画

※その他、適宜参考書の紹介を行う

3. 評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子どものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科 目 名	乳児保育Ⅱ
担当教員名	帆足 暁子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格 乳児保育Ⅰを基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。
 ②科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。
 ③学修目標 子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテーマを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぼうとする。また、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

2. 内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テーマ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。
 また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

3. 評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。
 評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。
 出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。
 毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科 目 名	乳児保育Ⅱ
担当教員名	帆足 暁子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格 乳児保育Ⅰを基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。
 ②科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。
 ③学修目標 子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテーマを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぼうとする。また、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

2. 内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テーマ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。
 また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

3. 評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。
 評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。
 出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。
 毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科 目 名	乳児保育Ⅱ
担当教員名	帆足 暁子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格 乳児保育Ⅰを基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。
 ②科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。
 ③学修目標 子どもひとり一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテーマを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぼうとする。また、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

2. 内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テーマ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。
 また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

3. 評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。
 評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。
 出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。
 毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科 目 名	体育教材研究Ⅰ
担当教員名	山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

「人間と運動」「子どもと運動」「初等体育科指導法」を履修した学生が、小学校における体育科の授業づくりを進める上で必要になる実践的な知識や技能を身につけることをねらいとした科目である。

② 科目の概要

体育授業の実践的な指導のあり方、授業構成および展開の方法についてより深く学ぶことを意図している。特に、この「体育教材研究Ⅰ」では、器械運動・ボール運動、水泳等を題材に児童の実態と教材の内容を関連づけた授業づくりの学習を進めていく。

③ 学修目標

小学校体育科の学習教材の特徴を理解するとともに、教材研究の進め方やその手立てを具体的に習得することをねらいとする。さらに、指導計画や学習指導案の立案・作成の要点を理解し、模擬授業ができるようになる。

2. 内容

回	内 容
1	体育科の授業づくりの基礎・基本①：学習指導案作成、授業の展開法、話術と表情（発問）
2	体育科の授業づくりの基礎・基本②：教材研究の進め方と留意点（教材の解釈）
3	体育科の授業づくりの基礎・基本③：用具や学習場面の工夫、運動量の確保
4	運動技能の定着と個人差に応じた指導について
5	小学校6年間を見通した系統的な指導について
6	安全への配慮と事故への対応（補助法）について
7	運動領域別の教材研究①：器械運動 *実技も行う
8	運動領域別の教材研究②：ボール運動 *実技も行う
9	運動領域別の教材研究③：水泳（DVDの活用）
10	体育授業の観察法（分析と評価）について
11	グループワーク（模擬授業の企画、指導案作成）
12	模擬授業と授業分析①
13	模擬授業と授業分析②
14	模擬授業と授業分析③
15	まとめ（実際の体育授業を参観する場合あり）

3. 評価

各回ごとの課題作成（30点）、発表活動（30点）、レポート（40点）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店
安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 ーQ&Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	体育教材研究Ⅱ
担当教員名	山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

「人間と運動」「子どもと運動」「初等体育科指導法」を履修した学生が、小学校における体育科の授業づくりを進める上で必要になる実践的な知識や技能を身につけることをねらいとした科目で、「体育教材研究Ⅰ」と並列に位置づけてある。

② 科目の概要

体育授業の実践的な指導のあり方、授業構成および展開の方法についてより深く学ぶことを意図している。特に、この「体育教材研究Ⅱ」では、器械運動・陸上運動・なわとび・保健学習等を題材に児童の実態と教材の内容を関連づけた授業づくりの学習を進めていく。

③ 学修目標

小学校体育科の学習教材の特徴を理解するとともに、教材研究の進め方やその手立てを具体的に習得することをねらいとする。さらに、指導計画や学習指導案の立案・作成の要点を理解し、模擬授業ができるようになる。

2. 内容

回	内 容
1	体育科の授業づくりの基礎・基本①：学習指導案作成、授業の展開法、話術と表情（発問）
2	体育科の授業づくりの基礎・基本②：教材研究の進め方と留意点（教材の解釈）
3	体育科の授業づくりの基礎・基本③：用具や学習場面の工夫、運動量の確保
4	運動技能の定着と個人差に応じた指導について
5	小学校6年間を見通した系統的な指導について
6	安全への配慮と事故への対応（補助法）について
7	運動領域別の教材研究①：器械運動、陸上運動 *実技も行う
8	運動領域別の教材研究②：なわとび *実技も行う
9	保健学習の教材研究（DVDの活用）
10	体育授業の観察法（分析と評価）について
11	グループワーク（模擬授業の企画、指導案作成）
12	模擬授業と授業分析①
13	模擬授業と授業分析②
14	模擬授業と授業分析③
15	まとめ（実際の体育授業を参観する場合あり）

3. 評価

各回ごとの課題作成（30点）、発表活動（30点）、レポート（40点）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）
高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店
安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 ーQ&Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科 目 名	卒業研究
担当教員名	綾井 桜子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	狩野 浩二

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	黒瀬 任通

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科 目 名	卒業研究
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	清水 玲子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	流田 直

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	増田 吉史

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科 目 名	卒業研究
担当教員名	松木 正子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科 目 名	卒業研究
担当教員名	皆川 美恵子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究
担当教員名	山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 科目の性格
この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしぼり、1つの研究論文にしてまとめるものである。
- ② 科目の概要
自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。
他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組む。9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進捗の目安を持って進めていく。
- ③ 学修目標
自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

2. 内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

3. 評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科 目 名	地域と福祉
担当教員名	宮城 道子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例（ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等）をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。自らの生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

2. 内容

回	内 容
1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域性の把握と生活問題
5	地域福祉の主体と多様な地域団体
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討①－老人給食をめぐる
8	事例検討②－お互い様の介護から
9	事例検討③－働く場を求めて
10	事例検討④－育てあう関係を広げて
11	事例検討⑤－安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告－自分の住む地域を考える
14	課題報告－自分のすむ地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

3. 評価

受講態度（20点）、授業における報告・発表（20点）、期末レポート（60点）とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：渋川智明『福祉NPO－地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S
 広井良典『持続可能な福祉社会－「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H
 岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/I

科目名	多文化教育
担当教員名	星 三和子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

- ① 今後日本の社会はさまざまな文化を背景にもつ人々との共生が一層重要になっていく。保育者・教師には、異文化からの子どもを受け入れる機会が一層増え、彼らの理解がより求められる。また自分の考え方が自文化の中で作られたもので、違う文化では違う考え方があることを知ることは私たちの世界を拡げてくれる。
- ② 講義では次のテーマを取り上げる。（１）子どもが文化の中に生まれ育つ社会化過程について、日本、アフリカ、インド、ヨーロッパの比較を通して考える。（２）乳幼児の保育の場での文化の影響を、日本、フランス、イタリアの例を中心に、世界の保育を概観しながら考える。（３）多文化共生のために教育の場でできることを考える。
- ③ 以上から、学生が多文化共生の考えをもって保育・教育に当たり、多様な子どもたち一人ひとりに即した教育を目指せることを目標とする。
- 配布資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

2. 内容

- 世界のさまざまな文化での子どもの育ち
- 社会・文化のなかの子どもの発達
- アフリカ、インドの伝統的育児と教育観
- 欧米の伝統的育児と教育観
- 日本の育児と教育観
- 社会化過程の日米比較
- 保育の場での社会化の日仏比較
- 世界の幼児教育と文化
- 多文化多民族社会における保育・教育
- 多文化共生教育の意味
- 多文化共生教育の実践例 1
- 多文化共生教育の実践例 2
- 日本における多文化共生教育の例
- 多様性に価値をおき尊重する教育について考える
- まとめ

3. 評価

- ①試験60%、②小テスト20%、③発表・発言20%

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 参考文献 東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
泉千勢他「学力とはなにか、世界の幼児教育」明石書店

科 目 名	特別活動の指導法
担当教員名	上原 行義

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

② 科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

③ 学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

2. 内容

回	内 容
1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動……社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題……特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷……近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際……学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価……学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題……学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成
8	8. 児童会活動、生徒会活動……児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項
11	11. 総合的な学習の時間との連携
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について……指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）
14	14. 模擬授業の実践（2）
15	15. 模擬授業の評価とまとめ

3. 評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科 目 名	精神保健
担当教員名	伊藤 美紀

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

精神保健は、「人間の心の健康」の維持・向上と、不健康な状態の予防・早期発見・治療についての学科であり、保育士資格取得のための必修科目のひとつである。ここでは、精神医学・心理学・社会学等のエッセンスが役に立つ。

本講座では、特に乳幼児期から児童期にある子どもの発達と、その時期に心理的問題となりやすい事柄とその対応の基礎について学習する。また、実際に子どもに関わっていく上では必要不可欠である、子どもをとりまく環境への視点、保護者サポート、家族への対応の基本について学習し、実践に役立つ基礎知識を習得していただきたい。

講義は教科書を中心にすすめていく。評価については、授業中に課すレポートの提出と学期末の筆記試験を総合的に判断して行う。

2. 内容

回	内 容
1	保育における精神保健
2	精神保健の概要（心の発達・こころの健康とは）
3	発達と精神保健 1（胎児期・乳児期）
4	発達と精神保健 2（幼児期）
5	発達と精神保健 3（学童期・思春期）
6	小児の生活環境と精神保健 1
7	小児の生活環境と精神保健 2
8	小児期のこころの問題 1
9	小児期のこころの問題 2
10	小児期のこころの問題 3
11	小児期の精神保健活動 1
12	小児期の精神保健活動 2
13	障害児保育 1
14	障害児保育 2
15	まとめ

3. 評価

レポート 50点
学期末筆記試験 50点
60点以上を合格とする

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】改訂・保育士養成講座編纂委員会／編 「精神保健」 全国社会福祉協議会

科 目 名	総合演習
担当教員名	狩野 浩二、黒瀬 任通、高橋 京子、廣坂 多美子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① この科目は、教育職員免許法に定められた科目で、3年次前期に履修することになります。広い視野を持って現代的な課題を追究したり、そうした課題を子どもたちが学習する際の、指導方法を学んだりするために設けられました。

② 私たちの暮らす現代は、極めて変化の激しい時代です。自分たちの国だけでものごとを考えていてはやっていけない時代です。常に日本と日本以外の地域との関わりを地球的な規模で考え、行動することが求められます。たとえば、人間尊重・人権尊重の精神、地球環境、異文化理解、民族対立・地域紛争と難民、人口と食糧、社会への男女の共同参画といった人類共通のテーマや、少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など社会全体に関わるテーマのうちのいくつかについて、ディスカッション等を中心に学び合い、それらの内容を子どもの発達段階に応じてどのように教えたらよいかについて受講生同士で互いに学び合うことをねらいとしています。

③ 受講生同士で話し合い、内容を深めあうことができること、グループ討論に主体的に参画することができること、口頭で発表したり、討論の結果をまとめることができること、などがねらいです。

2. 内容

以下、演習のすすめ方についていくつかの内容を列記します（順不同）。

1. 総合演習のすすめ方（研究班作り、研究テーマ決定、発表の手順）
- 2～15. 研究班ごとの活動 研究テーマの研究と討論、発表、担当者による講評

3. 評価

各班ごとの研究テーマ追究と、そのまとめとして作成するレポートづくり（20点）と口頭発表と事後レポートづくり（80点）などを組み合わせて、総合評価します。特に集団討論の実際において、積極的に取り組むことが大事です。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 使用しません。
 【推薦書】 ○教育課題便覧〈平成22年版〉 学校教育課題研究会 窪田眞二 学陽書房○教育法規便覧〈平成22年版〉 窪田眞二、小川友次 学陽書房○教育法規解体新書―速解!校務に役立つ知識とトラブル対処法 学校運営実務研究会（編集）、佐藤 晴雄 東洋館出版社
 【参考図書】 講義中に適宜紹介します。

科 目 名	表現活動
担当教員名	狩野 浩二

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校の先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

② この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（08年度は「利根川」〈斎藤喜博・詩、近藤幹雄・曲、09年度は「かたくりの花」〈横須賀薫・詩、梶山正人・曲〉、10年度は、「善知鳥（うとう）の浜」、11年度は「子どもの四季」に取り組む予定です）。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

③ 仲間同士で協力し合い、作品を仕上げることで、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

2. 内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。
第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力—脱力、呼吸法
2. 教師の表現力—声
3. 教師の表現力—朗読
4. 表現活動の指導—呼吸法
5. 表現活動の指導—行進
6. 表現活動の指導—ステップ
7. 表現活動の指導—身体表現
8. 表現活動の指導—集団朗読
9. 表現活動の指導—総合表現
10. 表現活動の指導—オペレッタ
11. 表現活動の指導—歌唱、合唱
12. 表現活動の指導—演出と構成
13. 表現活動の指導—子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導—まとめ
15. まとめ

3. 評価

毎時間の取り組み（①協調性20点、②主体性20点、③教材解釈20点、④表現力20点、⑤創造性20点）を総合して評価します。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教室で随時資料を配付します。

【推薦書】 横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】 梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1. 2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科 目 名	造形基礎Ⅱ
担当教員名	宮野 周

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な造形あそびを通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。
 素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。
 様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力を身につけてほしい。

2. 内容

回	内 容
1	授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事などを知る。
2	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動1について学ぶ。
3	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動2について学ぶ。
4	色彩の基礎1について学ぶ。
5	色彩の基礎2 について学ぶ。
6	身近にある材料1を使った表現を学ぶ。
7	身近にある材料2を使った表現を学ぶ。
8	身近にある材料3を使った表現を学ぶ。
9	身近にある材料4を使った表現を学ぶ。
10	身近にある材料5を使った表現を学ぶ。
11	身近な材料1でつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
12	身近な材料2をつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
13	身近な材料3をつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
14	映像メディア表現の可能性や教材化などを学ぶ。
15	まとめ

3. 評価

活動への取り組み、学習態度（30％）、課題、提出物、レポート（70％）により総合的に判断します。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに
- ・平田智久・小野和編著『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』保育出版社

科 目 名	道徳の指導法
担当教員名	綾井 桜子、高橋 京子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」の一つです。講義では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育について学びます。

学修目標は、次の三つです。①小学校における道徳教育の役割を理解する。②「道徳の時間」の指導について理解し、構想をたてる。③発表を通じて、相互に検討を行い、自身の道徳教育観を深める。

2. 内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 現代社会と道徳教育
3. 学習指導要領における道徳教育の位置づけ、役割
4. 他国にみる道徳教育
5. 道徳教育の変遷①－明治期における道徳教育
6. 道徳教育の変遷②－「道徳の時間」の特設
7. 「道徳の時間」の指導と学習指導案の内容について
8. 学習指導案の形式①－「基本型」の学習指導案と資料について
9. 「基本型」の学習指導案の作成
10. 学習指導案の形式②－モラル・ジレンマの指導案とジレンマ資料について
11. 発達に応じた指導とは－道徳性の発達理論について①
12. 発達に応じた指導とは－道徳性の発達理論について②
13. 課題発表①
14. 課題発表②
15. まとめ

3. 評価

試験50点、課題提出30点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】小寺正一・藤永芳純 編『三訂 道徳教育を学ぶ人のために』世界思想社
 【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論－対話による対話への教育』
 【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科 目 名	保育・教育相談
担当教員名	伊藤 美紀

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育・教育の現場で相談活動に臨む際に必要な、相談・援助のための基本的な技法を学ぶことがこの教科のねらいである。

子どもの臨床的課題に対し適切な心理的援助を行っていくためには、基本的な発達の理解が必要不可欠なことはいうまでもないが、同時に、保護者と良好な関係を作り協働していくこと、問題を一人で抱え込むのではなく仲間と協力していくこと、また必要に応じて他機関との連携をとっていくことなども重要である。保育・教育相談に携わる際の基礎知識と基本技法の習得をめざし、保育・教育現場での多様なニーズに応えていくための下地づくりをしていきたい。

講義は教科書を中心に進めていく。また、対人援助技法を身につけるためのワークを適宜実施していきたい。評価については、授業中に課すレポートの提出と学期末の筆記試験の成績を総合して行う。

2. 内容

回	内 容
1	オリエンテーション
2	保育・教育相談の基盤となるカウンセリング理論（1）
3	保育・教育相談の基盤となるカウンセリング理論（2）
4	保育・教育相談に対応する実践理論（1）
5	保育・教育相談に対応する実践理論（2）
6	カウンセリング実践ワーク（1）
7	保育相談と地域の保育関係機関との連携（1）
8	保育相談と地域の保育関係機関との連携（2）
9	園における保育相談の実践（1）
10	園における保育相談の実践（2）
11	カウンセリング実践ワーク（2）
12	保育相談と他機関との連携の成立過程（1）
13	保育相談と他機関との連携の成立過程（2）
14	保育相談と他機関との連携の成立過程（3）
15	まとめ

3. 評価

レポート 50点
学期末筆記試験 50点
60点以上を合格とする

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】赤井美智子編著「園における保育相談と地域他機関との連携」ぶんしん出版

【参考】平山諭・早坂方志編著「発達の臨床からみた心の教育相談」

科 目 名	保育内容の指導法（人間関係）
担当教員名	赤井 美智子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とのかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

- ①高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とのかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。
- ②保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。
- ③保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

2. 内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とのかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

- ①今、なぜ人間関係か
- ②現代社会と子ども
- ③人とのかかわる力を弱める要因
- ④人間関係をとらえる視点
- ⑤人間関係をとらえるための基本原理
- ⑥自己の人間関係分析
- ⑦発達における人間関係の意義
- ⑧人間関係の発達
- ⑨こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）
- ⑩保育と人間関係
- ⑪教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」
- ⑫社会、文化の影響と子どもの人間関係
- ⑬個と集団との関係
- ⑭グループ活動による事例研究
- ⑮まとめ

3. 評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論—かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科 目 名	保育内容の指導法（人間関係）
担当教員名	赤井 美智子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とのかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

①高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とのかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。②保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方の基本を理解する。③保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

2. 内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析によって自己の人とのかかわる力についての洞察を深め、保育実践力の向上にもつながることをめざす。

- ①今、なぜ人間関係か
- ②現代社会と子ども
- ③人とのかかわる力を弱める要因
- ④人間関係をとらえる視点
- ⑤人間関係をとらえるための基本原理
- ⑥自己の人間関係分析
- ⑦発達における人間関係の意義
- ⑧人間関係の発達
- ⑨子どもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）
- ⑩保育と人間関係
- ⑪教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」
- ⑫社会、文化の影響と子どもの人間関係
- ⑬個と集団との関係
- ⑭グループ活動による事例研究
- ⑮まとめ

3. 評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論—かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）
担当教員名	山田 陽子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とのかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

- ①高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とのかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。
- ②保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。
- ③保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

2. 内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とのかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

- ①今、なぜ人間関係か
- ②現代社会と子ども
- ③人とのかかわる力を弱める要因
- ④人間関係をとらえる視点
- ⑤人間関係をとらえるための基本原理
- ⑥自己の人間関係分析
- ⑦発達における人間関係の意義
- ⑧人間関係の発達
- ⑨子どもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）
- ⑩保育と人間関係
- ⑪教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」
- ⑫社会、文化の影響と子どもの人間関係
- ⑬個と集団との関係
- ⑭グループ活動による事例研究
- ⑮まとめ

3. 評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論一かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）
担当教員名	山田 陽子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とのかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

- ①高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とのかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。
- ②保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。
- ③保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

2. 内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とのかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

- ①今、なぜ人間関係か
- ②現代社会と子ども
- ③人とのかかわる力を弱める要因
- ④人間関係をとらえる視点
- ⑤人間関係をとらえるための基本原理
- ⑥自己の人間関係分析
- ⑦発達における人間関係の意義
- ⑧人間関係の発達
- ⑨子どもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）
- ⑩保育と人間関係
- ⑪教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」
- ⑫社会、文化の影響と子どもの人間関係
- ⑬個と集団との関係
- ⑭グループ活動による事例研究
- ⑮まとめ

3. 評価

レポート（60%）、学習への参加状況（40%）を総合して評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論—かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科 目 名	保育内容の指導法（健康）
担当教員名	高橋 京子、山本 悟

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

① 科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許および保育士資格取得の必修科目であり、幼児の健康・安全・運動に関する指導のあり方を学ぶものである。

② 科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせる方法や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的なあり方を理解する。

③ 学修目標

幼児における健康の意義とその必要性を理解し、健康に関する保育指導法の知識や技能を身につけることができる。

2. 内容

回	内 容
1	オリエンテーション（本講義のねらいについて）
2	幼児における健康的な生活について
3	子どもの身体の特質
4	子どもの心身の発育・発達
5	子どもの生活リズム
6	基本的な生活習慣とその指導法
7	幼稚園における実際活動を知る ①
8	子どもの遊びと運動および、その指導法
9	子どもの運動発達とその指導法
10	子どもの体力測定
11	運動会の運営とその指導上の留意点
12	子どもの安全指導に関する実際と留意点
13	保健指導に関する実際と留意点
14	幼稚園における実際活動を知る ②
15	まとめ

3. 評価

発表活動（20%）、小テスト（30%）、レポート（50%）による評価を行う。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「幼稚園教育要領」 フレーベル館（平成20年度）
【推薦書】 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
河邊貴子編 「保育内容（健康）」 ミネルヴァ書房

科目名	保育内容の指導法（環境）
担当教員名	高櫻 綾子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

乳幼児期の発達に関する基本的知識をもとに、領域「環境」の意義とねらい、内容について、人・物・空間・自然・社会といった多様な側面から学ぶことを通して、乳幼児期における「環境」の重要性に気づくとともに、他の領域や小学校における教育との連続性を踏まえながら保育者の役割と援助について具体的に理解することを目的とする。また保育・教育現場での実践に基づく講義とグループディスカッションや発表といった受講者の主体的な学びを通して、受講者自身が具体的に捉え、考えることができるようにする。そのため受講者には（1）授業内容の復習と整理、（2）配布資料や事例の熟読と考察、（3）授業時間内における課題への積極的、意欲的な取り組みを期待する。

2. 内容

回	内 容
1	保育と環境（1）子どもにとっての環境
2	保育と環境（2）保育内容「環境」
3	保育と環境（3）遊びと環境
4	人的環境（1）保育者の役割と援助
5	人的環境（2）環境の担い手としての子ども
6	自然環境（1）行事
7	自然環境（2）植物・動物
8	自然環境（3）文字・数字
9	物的・空間的環境（1）保育計画
10	物的・空間的環境（2）保育者による環境構成
11	物的・空間的環境（3）記録と省察
12	社会的環境（1）子どもを取り巻く現代日本の社会状況
13	社会的環境（2）安全性
14	社会的環境（3）地域社会との連携
15	まとめ

3. 評価

授業時の課題提出20%、課題に対する取り組みと口頭発表30%、期末レポート50%により評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無藤隆・福元真由美（編）『事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』 萌文書林

科目名	保育内容の指導法（言葉）
担当教員名	上垣内 伸子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

②科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

2. 内容

回	内 容
1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞/「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える①子どものコミュニケーション様式
5	②遊びの中の言葉／ごっこ遊びの中での会話
6	③－1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	③－2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイメージーション①私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	②文化財としての絵本と紙芝居／読み聞かせの演習
10	③保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び／劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

3. 評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）
担当教員名	上垣内 伸子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

②科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

2. 内容

回	内 容
1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞/「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える①子どものコミュニケーション様式
5	②遊びの中の言葉／ごっこ遊びの中での会話
6	③－1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	③－2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイメージーション①私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	②文化財としての絵本と紙芝居／読み聞かせの演習
10	③保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び／劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

3. 評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）
担当教員名	横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

②科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

2. 内容

回	内 容
1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞/「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える①子どものコミュニケーション様式
5	②遊びの中の言葉／ごっこ遊びの中での会話
6	③－1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	③－2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイメージーション①私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	②文化財としての絵本と紙芝居／読み聞かせの演習
10	③保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び／劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

3. 評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）
担当教員名	横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

②科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

2. 内容

回	内 容
1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞/「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える①子どものコミュニケーション様式
5	②遊びの中の言葉／ごっこ遊びの中での会話
6	③－1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	③－2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイメージーション①私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	②文化財としての絵本と紙芝居／読み聞かせの演習
10	③保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び／劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

3. 評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科 目 名	保育内容の指導法（身体表現）
担当教員名	坪倉 紀代子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

★受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

2. 内容

回	内 容
1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	＜動きを引き出す言葉かけの要素＞運動そのものを明確にしていく
7	〃 擬音語・擬態語との関係
8	〃 イメージと結びつけて
9	〃 変化を生みだす状況設定
10	〃 ストーリーを考える
11	＜多様な題材からの身体表現と指導法＞紙飛行機
12	〃 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的な、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

3. 評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%
三分の二以上出席することで評価を受けることができる。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実	『五感力を育てる』	中公新書
高田ケラー有子	『平らな国デンマーク』	NHK出版
山本直英、片山健	『からだっていいな』	童心社

科目名	保育内容の指導法（造形表現）
担当教員名	平田 智久

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「…幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が小学校指導要領にも示されている。そうした教育や保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

②科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

③学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

2. 内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

3. 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）
担当教員名	平田 智久

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「…幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が小学校指導要領にも示されている。そうした教育や保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

②科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

③学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

2. 内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

3. 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）
担当教員名	平田 智久

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「…幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が小学校指導要領にも示されている。そうした教育や保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

②科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

③学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

2. 内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

3. 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）
担当教員名	平田 智久

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「…幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が小学校指導要領にも示されている。そうした教育や保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

②科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

③学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

2. 内容

1. プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
15. エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

3. 評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科 目 名	保育内容の指導法（音楽表現）
担当教員名	清水 玲子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、指導できることを学修目標とする。

2. 内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1) 歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3～4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

①リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

②各自の技術に合わせた演奏と編曲

③歌いながらの指導法

④行事関係の曲

⑤生活関連の曲

⑥あそび関連の曲

(2) リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2～3曲覚える。

①普段の保育でのリズムあそびやその創作

②発表会や運動会を中心としたあそび・動き

③歩くリズムの捉え方

④走るリズムの捉え方

⑤スキップのリズムの捉え方

⑥流れるリズムの捉え方

⑦縦乗りのリズムの捉え方

3. 評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合（キングレコード）
- ・お誕生会あそび&運動会ダンス（キングレコード）など

科目名	保育実習Ⅰ
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習Ⅱ」とともに必ず履修しなければならない。（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに保育特別実習「Ⅰ」もしくは「Ⅱ」を選択履修すること。）

②科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1～2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達とケアのあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺的な仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に大事である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

③学修目標

実習は「事前指導－実習－事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

2. 内容

＜保育実習Ⅰの主な内容＞

- ①実習施設の概要の理解
- ②保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）
- ③乳幼児の発達
- ④保育課程・指導計画の理解
- ⑤多職種職員の連携によるチームワークの実情
- ⑥家庭・地域の連携
- ⑦保育方法と保育技能の理解と習得
- ⑧安全・危機管理
- ⑨疾病予防や健康維持を図る配慮
- ⑩保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

3. 評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

＜教科書＞

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習Ⅱ
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育実習Ⅱは、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間（90時間）、保育所以外の児童福祉施設①乳児院②児童養護施設③肢体不自由児施設④知的障害児（者）施設等での実習を行う。宿泊実習が原則であるが、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。学生にとって宿泊実習は不安と緊張を感じるものである。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を讀んだりして実習に焦点を合わせるようにする。実習に対して実践的なイメージをより具体的に持つことが重要である。配属先の施設について事前学習を自主的に行い、学生自身の実習における具体的な目標を明確にした上で実習に望むことが求められる。複雑多様化していく今日の子ども達へのニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達や成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント（事前評価）を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶことは大切なことである。施設の職員・子ども達との共同生活を通して施設の実態に触れようという体験は、自己の抱いていた偏見や先入観を取り除くきっかけとなりうる。同時に施設の子ども達や職員について、新しい児童観・福祉観を身につけて、自分の保育に対する姿勢を見直す糸口とすることをねらいとしている。

2. 内容

具体的な指導は実習総論Ⅰの年間30回の計画に従う。
「事前指導⇒配属先の発表⇒実習施設の事前報告書作成⇒オリエンテーション報告書の提出⇒実習開始⇒巡回指導を受ける⇒事後指導（学内反省会）⇒個別指導（評価表にそって）」の流れにのって進める。
実習先の施設は、大学の指定した施設となる。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になることが多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、実習先福祉施設の具体的な理解を深めることが必要となる。過去のオリエンテーション報告書や福祉施設の機能について事前に調べておくことが求められる。その上で自身の施設実習の具体的な目標を掲げ、目標達成に向けてどのような実習をするかをイメージできるように学習する。
施設における保育士の役割を学びながら、実習を通じて幅広い年齢層、多様な背景をもつ子ども達の生活ニーズを把握し、個別的・集団的に対処していく力を高めていくこととする。生活をともにしながら保育を実践している施設保育士に求められる幅広い職務内容を理解しながら、実習生としてのどのような学びを深めていきたいかという自覚を持つことが大切である。
また知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。職員とのかかわりを通しての子どもの理解という視点を忘れないように心掛ける。

3. 評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。また実習にあたって必要な提出書類に不備がないことも評価の対象とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習総論
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」、「保育特別実習Ⅰ」「保育特別実習Ⅱ」「保育・教育特別実習」、「幼稚園教育実習Ⅲ」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

②科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

③学修目標

実習は「事前指導－実習－事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

2. 内容

【前期の主な授業内容】

＜「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の事前指導＞

- ・授業概要とスケジュール／各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌／指導案／実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

＜「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の事後指導＞

- ・実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・実習課題（自己課題／保育課題）の確認

＜「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前指導＞

- ・3年次「幼稚園教育実習Ⅱ」の目的と方法、心構え
- ・実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材選択や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方／指導案／模擬保育
- ・個別指導

＜「保育特別実習Ⅰ」「保育特別実習Ⅱ」「保育・教育特別実習」の事前指導＞

- ・各実習の目的と方法
- ・実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。

3. 評価

授業への参加状況（50%）や課題提出（50%）などから総合的に判断する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

＜教科書＞

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

＜参考書＞

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育特別実習Ⅰ
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育実習Ⅰ（「保Ⅰ」と略す）」「保育実習Ⅱ（「保Ⅱ」と略す）」のほかに、この「保育特別実習Ⅰ（「特Ⅰ」と略す）」を履修する必要がある。「保Ⅰ」「保Ⅱ」「保育実習総論」を履修後に取り組む実習である。

②科目の概要

「特Ⅰ」での実習では、今までの実習や主として「保Ⅰ」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保Ⅰ」の実習経験と「特Ⅰ」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラスに連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

③学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。実習時期と内容により事前事後指導を3年次の「保育実習総論」、4年次の「幼稚園教育実習Ⅰ」でおこなう。そのため「幼稚園教育実習Ⅰ」の指定された授業に参加し、「特Ⅰ」で学ぶ内容、実習先の理解、実習後の振り返り等の指導を受ける必要が生じる。

2. 内容

「保育実習Ⅰ」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- ①保育全般に参加し保育技能を習得する
- ②子どもの個人差に応じた援助を理解する
- ③多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- ④指導計画の立案と実践（責任実習）
- ⑤家族や地域社会との連携を学ぶ
- ⑥保育者の倫理について理解する
- ⑦保育への自己課題の明確化
- ⑧保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習Ⅰ」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保Ⅰ」とは違う保育所で体験すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

3. 評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習Ⅱ
担当教員名	向井 美穂、山田 陽子、鈴木 晴子、野口 隆子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」のほかに、この「保育特別実習Ⅰ（特Ⅰ）」、この保育特別実習Ⅱ（特Ⅱ）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「特Ⅰ」、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「特Ⅱ」ということになるが、受け入れ先との交渉や、その他の実習スケジュールとの関係も考慮しなければならない。また、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけられている。

「保育実習Ⅱ」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とする。また児童福祉施設の持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げた視点を養うことも目標である。

すなわち、将来保育所以外の児童福祉施設で子どもを援助していく専門職員に必要とされる子どもの発達を全人的にとらえる観点を実習により体得しようとする姿勢が必要とされる。

2. 内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては①施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する②子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する③実習施設の生活環境などを理解する④子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する⑤施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めておかなければならない。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。実習先施設に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨まなくてはならない。

実習は日数は11日間（半日を含む場合はなるべく11日以上にする）で「通い」型と「宿泊」型の実習形態となる。

施設種別は「保育実習Ⅱ」とは別の種別が望ましい。「保育実習Ⅱ」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが大切である。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。

3. 評価

実習先の施設による評価を基本とするが、施設によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価の読み替えを行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育者論
担当教員名	

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための必修科目である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

②科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を移した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

③学修目標

保育者とはどういう存在か、保育者の資質、保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し具体的に考える。

2. 内容

- 第1回：保育者とは
- 第2回：保育者の仕事と役割、専門性（1）保育士
- 第3回：保育者の仕事と役割、専門性（2）幼稚園教諭
- 第4回：保育の現行制度と歴史
- 第5回：保育者の様々な役割、保育者の倫理、職務内容（研修、服務及び身分保障）
- 第6回：乳幼児期の子どものための保育者
- 第7回：子ども理解と保育実践
- 第8回：青年期の自己と進路・職業選択
- 第9回：保育者になること、実習での学び
- 第10回：保育者の保育実践と省察
- 第11回：保育における協働と連携
- 第12回：保育者としての学びと専門的成長をめぐる理論
- 第13回：保育者の専門的成長を促すメンタリング、研修
- 第14回：世界の保育者養成と保育者像
- 第15回：総括

3. 評価

授業への参加度、授業終了時のコメントペーパーからなる平常点（20点）、小課題提出（30点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<テキスト>

秋田喜代美（編）「今に生きる保育者論」（株）みらい

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科 目 名	保育内容総論
担当教員名	上垣内 伸子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

②科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

2. 内容

回	内 容
1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」①名称／基本情報の決定
3	②教育方針の設定
4	③園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	④保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	⑤幼稚園の特長・特色の明確化
7	⑥グループごとの発表1回目
8	⑦グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」①作成した保育内容の再考・検討
10	②保育内容の具体化
11	③保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	④グループごとの発表1回目
13	⑤グループごとの発表1回目
14	まとめ—子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得①「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	②各領域の関係性を考える

3. 評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

科 目 名	保育内容総論
担当教員名	上垣内 伸子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

②科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

2. 内容

回	内 容
1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」①名称／基本情報の決定
3	②教育方針の設定
4	③園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	④保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	⑤幼稚園の特長・特色の明確化
7	⑥グループごとの発表1回目
8	⑦グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」①作成した保育内容の再考・検討
10	②保育内容の具体化
11	③保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	④グループごとの発表1回目
13	⑤グループごとの発表1回目
14	まとめ—子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得①「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	②各領域の関係性を考える

3. 評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

科 目 名	保育内容総論
担当教員名	横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

②科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

2. 内容

回	内 容
1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」①名称／基本情報の決定
3	②教育方針の設定
4	③園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	④保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	⑤幼稚園の特長・特色の明確化
7	⑥グループごとの発表1回目
8	⑦グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」①作成した保育内容の再考・検討
10	②保育内容の具体化
11	③保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	④グループごとの発表1回目
13	⑤グループごとの発表1回目
14	まとめ—子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得①「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	②各領域の関係性を考える

3. 評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

科 目 名	保育内容総論
担当教員名	横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

②科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

③学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

2. 内容

回	内 容
1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」①名称／基本情報の決定
3	②教育方針の設定
4	③園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	④保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	⑤幼稚園の特長・特色の明確化
7	⑥グループごとの発表1回目
8	⑦グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」①作成した保育内容の再考・検討
10	②保育内容の具体化
11	③保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	④グループごとの発表1回目
13	⑤グループごとの発表1回目
14	まとめ—子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得①「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	②各領域の関係性を考える

3. 評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館
(他に毎回プリント資料配布)

科 目 名	保育方法
担当教員名	榎谷 厚子、山田 陽子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

この科目は、幼稚園教諭・保育士の資格を得るために必要となる科目です。幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うためにとても大切です。幼稚園・保育園は、幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、ともに生活する保育者の役割はきわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの発達に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

また、幼稚園現場の新鮮な話題や、具体的な日常もたくさん伝えていきたいと思っています。現場を身近に感じ、保育を自分自身の問題として捉え、各自が、自分なりの保育観を描いていかれるように授業を進めていきます。

2. 内容

講義だけでなく、自分の園の行事のビデオを紹介したり、授業の終わりに絵本を楽しむひとときも計画しています。子どもの好きな歌や踊りも時間があれば紹介したいと考えています。

また授業の終わりに小レポートを提出していただきますが、自分の小さい頃を思い出したり、自分の今の思いをまとめたり、ひとつのテーマについてじっくり考えたりする良い機会になっているようです。

回	内 容
1	幼稚園ってどんなところ？ どんな保育者になりたい？
2	安心して自分らしく過ごすことの大切さについて
3	“遊び”について考えましょう
4	三歳児入園当初のビデオを見て考えましょう
5	人とのかかわりについて、トラブルの大切さについて考えましょう
6	“しつけ”について考えましょう 皆さんの規範意識は？
7	一人ひとりの成長について 皆さんで歌いましょう！
8	子育てについて、今のお母さんたちの思いに心を寄せましょう
9	自分の“幸せ体験”について考えましょう
10	行事について考えましょう・・・行事は生活に変化や潤いを与える・・・はず
11	運動会のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう
12	日常の遊びから行事へ
13	いろいろな子がいる・・・みんなちがってみんないい
14	“みんなで楽しく音楽会”のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう
15	個の成長が集団の成長へ 再びどんな保育者になりたい？ 皆さんで歌って踊りましょう！

3. 評価

授業の終わりの小レポート（50%）レポート（50%）により評価を行い60点以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（参考図書）『幼稚園教育要領解説』文部科学省

科 目 名	幼児教育基礎実習
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、山田 陽子、横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子どもの心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者を目指す存在としての自己理解を深めていくことを目的とした、幼稚園における参加観察実習が「幼児教育基礎実習」である。

本学附属幼稚園を含む10 数園の幼稚園に分かれ、隔週で週1 回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い3 年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習を通して試みる。

2. 内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1 回、登園前から降園後まで1 日の実習を3 日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4 日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4 日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第7週頃：1 日：幼稚園にて学外オリエンテーション／保育見学・保育参加

第8～14週頃：3 日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4 日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計58時間の幼稚園での実習となる。

3. 評価

1. すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。
2. 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

【参考図書】

津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376. 1/T

科 目 名	幼児教育基礎演習
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、山田 陽子、横井 紘子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20 人規模での話し合いの演習を行う。

“計画→実践→省察”という保育実践の連続性の中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、それを自らの保育行為において具現化していくことの実践を体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

2. 内容

1. オリエンテーション／事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20 人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4 日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

3. 評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6：2：2 の比率で評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

【参考図書】

津守 真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T

津守 真 『保育の体験と思索』 大日本図書 376.1/T

科 目 名	幼児教育基礎論
担当教員名	上垣内 伸子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の選択科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

②科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

③学修目標

- ・保育の基本的理解を目的とする。
- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

2. 内容

回	内 容
1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および改訂の経緯
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

3. 評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 関口はつ江他『保育原理－実践的幼児教育論－』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2011 ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】 津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科 目 名	幼稚園教育実習Ⅱ
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

幼稚園教諭免許状取得のための総合的実習である。
 主な目的は以下のようである。
 これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと、社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること、さらに幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることが出来ること。
 ただし、児童教育専攻の学生が、小学校教諭1種免許状に加え、幼稚園教諭1種免許状を希望する場合には、原則として「幼稚園教育実習Ⅲ」を履修して実習を行う。

2. 内容

詳細は「幼稚園教諭・保育士のための実習の手引」を参照のこと。

3. 評価

評価の観点「幼稚園教諭・保育士のための実習の手引」参照のこと。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指定する。

科目名	幼稚園教育実習Ⅲ
担当教員名	大宮 明子、岡上 直子、上垣内 伸子、鈴木 晴子 他

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習の科目である。
 小学校教諭免許状取得のために4週間の小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。
 幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとするのが求められる。
 幼稚園での教育実習を体験することで、大学で学習した理論や教育方法を活用しながら、幼稚園教諭を目指す者として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付けることを目標とする。

②科目の概要

幼稚園教育の基本となる考え方、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、実習園における総合実習及び実習の経験から学んだことの理解を深める。

③学修目標

- 幼稚園教育の理念・特質を理解する
- 幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する
- 幼稚園教育の具体的な指導力を身に付ける
- 幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

2. 内容

（1）事前指導

課題意識をもって実習に臨むことを目指して、幼稚園教育の基本となる考え方について学び、幼稚園教育の実践について具体的なイメージを広げる。

- ①実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション
- ②幼児の発達特性と観察の方法について
- ③保育内容、指導と評価
- ④幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案作成の方法
- ⑤実習園におけるオリエンテーション（園長、実習担当の教職員等による）

（2）総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、2週間である。

- ①参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。
- ②実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ③幼児集団を指導する部分実習（数回）及び責任実習（1日）を行う。
 両実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。
- ④実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

（3）事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

- ①幼稚園教育の独自性
- ②幼稚園における学びの評価
- ③幼稚園教育と小学校教育の接続（遊びの中の学びから学習へ）

3. 評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。
 実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。
 事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を30%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を70%として、総合的に評価する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント配布

【参考書】文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
 文部科学省 「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」 ぎょうせい

科 目 名	理科教材研究Ⅰ
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

「理科概説」、「初等理科指導法」の延長・関連として、本科目を設定している。新学習指導要領「理科」の目標は、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」となっている。小学校理科の中で扱われる観察や実験に関して各チームで分担して教材研究を行い、模擬授業形式で授業を行ってもらい、理科実験室ではどのように指導すればよいかを相互に体験しながら学習する。

理科教材研究Ⅱについては、基本的に理科教材研究Ⅰと同じ内容であるので、どちらかを選択履修してもらいたい。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（班編成、実験室の使用について）
2	第3学年（A）物質とエネルギー、物と重さ、風やゴムの動き
3	第3学年（A）物質とエネルギー、光の性質、磁石の性質、電気の通り道
4	第3学年（B）生命・地球、昆虫と植物、身近な自然の観察、太陽と地面の様子
5	第4学年（A）物質とエネルギー、空気と水の性質、金属・水・空気と温度
6	第4学年（B）生命・地球、人のつくりと運動、動物の誕生（5年）、季節と生物
7	第4学年（B）生命・地球、天気の様子と天気の変化（5年）、月と太陽と星
8	第5学年（A）物質とエネルギー、振り子の運動、てこの規則性（6年）
9	第5学年（B）生命・地球、植物の発芽、成長、結実
10	第5学年（B）生命・地球、流水の働き、土地のつくりと変化（6年）
11	第6学年（A）物質とエネルギー、燃焼の仕組み、電気の利用
12	第6学年（A）物質とエネルギー、物の溶け方（5年）、水溶液の性質
13	第6学年（B）生命・地球、植物の養分と水の通り道、生物と環境
14	小学校理科指導における留意点
15	まとめ

3. 評価

実験レポート（40%）、最終テスト（40%）、授業中の課題への取組（10%）、授業参加意欲（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）

【推薦書】 未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科 目 名	理科教材研究Ⅱ
担当教員名	井口 磯夫

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

「理科概説」、「初等理科指導法」の延長・関連として、本科目を設定している。新学習指導要領「理科」の目標は、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」となっている。小学校理科の中で扱われる観察や実験に関して各チームで分担して教材研究を行い、模擬授業形式で授業を行ってもらい、理科実験室ではどのように指導すればよいかを相互に体験しながら学習する。

理科教材研究Ⅱについては、基本的に理科教材研究Ⅰと同じ内容であるので、どちらかを選択履修してもらいたい。

2. 内容

回	内 容
1	ガイダンス（班編成、実験室の使用について）
2	第3学年（A）物質とエネルギー、物と重さ、風やゴムの動き
3	第3学年（A）物質とエネルギー、光の性質、磁石の性質、電気の通り道
4	第3学年（B）生命・地球、昆虫と植物、身近な自然の観察、太陽と地面の様子
5	第4学年（A）物質とエネルギー、空気と水の性質、金属・水・空気と温度
6	第4学年（B）生命・地球、人のつくりと運動、動物の誕生（5年）、季節と生物
7	第4学年（B）生命・地球、天気の様子と天気の変化（5年）、月と太陽と星
8	第5学年（A）物質とエネルギー、振り子の運動、てこの規則性（6年）
9	第5学年（B）生命・地球、植物の発芽、成長、結実
10	第5学年（B）生命・地球、流水の働き、土地のつくりと変化（6年）
11	第6学年（A）物質とエネルギー、燃焼の仕組み、電気の利用
12	第6学年（A）物質とエネルギー、物の溶け方（5年）、水溶液の性質
13	第6学年（B）生命・地球、植物の養分と水の通り道、生物と環境
14	小学校理科指導における留意点
15	まとめ

3. 評価

実験レポート（40%）、最終テスト（40%）、授業中の課題への取組（10%）、授業参加意欲（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）

【推薦書】 未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科 目 名	理科概説
担当教員名	井口 磯夫、津吹 卓

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分の教科に関する科目の中の選択科目である。
 小学校の理科は第3学年以上からの学習となる。その内容は、「生物とその環境」「物質とエネルギー」「地球と宇宙」の3つの区分で構成される。中学年から高学年にかけて問題解決的な学習と体験的な活動が重視されている。また、中学校以上の理科の基礎としての内容は、確実に身につけさせておく必要がある。理科は、自然科学を学習する教材であり、その目的は、自然科学の基本的な事実と法則を児童生徒の身体的・精神的能力の発達段階にふさわしい内容と順序をもって、正確に理解させることである。青少年の「理科離れ・科学離れ」が社会問題となって久しい。この授業では、日本の理科教育の歴史をたどりながら、これらの問題の本質を探る。

2. 内容

回	内 容
1	科学の基本構造、理科教育の目的と目標
2	理科教育の歴史、理科教育の現状と問題点
3	授業計画 理科という教科：理科教育、理科の学習
4	自然とその探究：自然の広がり、自然の探究
5	地球の成り立ち：地球の誕生、大陸移動
6	太陽系の構成：太陽、惑星、星座
7	宇宙の広がり：銀河系と宇宙
8	生物の進化：生命の誕生、進化
9	生命のつながり：発生と遺伝、生態系
10	物質の構造：原子、イオン、結晶
11	物質の性質と変化：酸と塩基、酸化と還元
12	物体の運動：落下運動、力学的エネルギー
13	電気とその性質：電流、電流と磁界
14	科学技術の発展と課題：エネルギー、資源、環境
15	まとめ

3. 評価

実験レポート（40％）、最終テスト（40％）、授業中の課題への取り組み（10％）、授業参加態度（10％）を総合して評価し、60％以上を合格とする。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎（東洋館出版社）

科 目 名	臨床発達心理学
担当教員名	長田 瑞恵、佐藤 礼子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

乳幼児期・児童期の子どもを臨床発達心理学的観点から考える。これまでに履修してきた発達に関わる基礎的な知識を土台として、さらに代表的な発達理論について理解を深めると同時に、臨床場面での事例に基づいて障がいについて学ぶ。

②科目の概要

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

③学修目標

- ・発達理論については、授業内に解説される内容をよく復習し、これまでに学んだ知識と有機的に統合する
- ・障がいについては、事例に基づくそれぞれの障がいの特徴を理解し、障がいをもつ子どもへの保育・教育について自分自身で考える力を養う
- ・臨床的な視点から発達をとらえることの必要性について理解する

2. 内容

回	内 容
1	臨床発達心理学総論（長田）
2	Piagetの発達段階論Ⅰ（長田）
3	Piagetの発達段階論Ⅱ（長田）
4	Eriksonの発達理論Ⅰ（長田）
5	Eriksonの発達理論Ⅱ（長田）
6	「心の理論」Ⅰ（長田）
7	「心の理論」Ⅱ（長田）
8	発達障がい総論（佐藤）
9	発達障がい各論Ⅰ：広汎性発達障害（佐藤）
10	発達障がい各論Ⅱ：ADHD（佐藤）
11	発達障がい各論Ⅲ：LD（佐藤）
12	発達障がい各論Ⅳ：発達障がいを持つ子どもを持つということ（佐藤）
13	もう一つの「発達障がい」Ⅰ：虐待1（佐藤）
14	もう一つの「発達障がい」Ⅱ：虐待2（佐藤）
15	まとめ

3. 評価

平常点（授業内に提出する感想・課題）20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験を実施する。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- | | | | |
|-------|-------|-----------------|--------|
| 【教科書】 | 白石正久著 | 『発達の扉 上』 | かもがわ出版 |
| | 白石正久著 | 『発達の扉 下』 | かもがわ出版 |
| 【推薦書】 | 市川宏伸著 | 『子どもの心の病気がわかる本』 | 講談社 |
| | 小西 行郎 | 『子どもの心の発達がわかる本』 | 講談社 |

科目名	養護内容
担当教員名	鈴木 晴子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次後期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉Ⅰ」、2年次履修「子ども家庭福祉Ⅱ」「社会福祉援助技術」、「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

②科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

③学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

2. 内容

回	内 容
1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	児童養護の決定に関する基本的しくみ
5	保育者の基本的な養護援助・支援① 児童養護施設を中心に
6	保育者の基本的な養護援助・支援② 障害児系施設を中心に
7	保育者の基本的な養護援助・支援③ 療育を中心に
8	施設養護での心理的ケア
9	虐待を受けた子どもへの支援① なぜ虐待は起こるのか
10	虐待を受けた子どもへの支援② 世代間伝達
11	施設内虐待と予防
12	施設と地域のつながり、家族再統合への取り組み
13	施設職員のメンタルヘルス
14	自立支援計画書の作成・方法
15	まとめ

3. 評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房
〔参考図書〕 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科 目 名	養護原理
担当教員名	鈴木 晴子

1. ねらい（①科目の性格 ②科目の概要 ③学修目標）

①科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。また、3・4年次の施設実習（保育所以外）とのつながりも念頭において、どの施設に配属されても対応できるように基本的知識と専門的視点を身につける。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉Ⅰ」、2年次履修「子ども家庭福祉Ⅱ」「社会福祉援助技術」、3年次履修「養護内容」とも関連性がある。

②科目の概要

これまでの児童養護の歴史を振り返ることで子どもが人として育つ過程での社会の役割について整理し、現代社会における児童養護の意義について理解する。また、児童養護施設の子どもの生活と施設保育者の仕事や役割について理解する。

③学修目標

1. 児童養護はなぜ生じるのか、施設で生活するとは何かについて考える
2. 児童養護施設の役割と援助の実際を理解する
3. 児童養護の原理と原則を理解する
4. 施設保育者の専門性と他職種連携を理解する

2. 内容

回	内 容
1	養護問題とは何か
2	子どもの権利と子ども観の変遷
3	児童養護の成り立ち① 古代から近世まで
4	児童養護の成り立ち② 最近の動向と関係法令の成立
5	ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論
6	家庭・地域の子育てと児童養護の関連
7	児童養護の原理・原則
8	児童養護の体系と種類① 養育環境に問題のある子ども施設養護の実際
9	児童養護の体系と種類② 障害のある子どものための施設養護の実際
10	児童養護の体系と種類③ 家庭的養護（里親制度など）
11	児童相談所の機能と役割
12	虐待を受けた子どもへの援助の実際
13	施設の設定と運営、第三者評価
14	施設保育者の専門性とチームワーク
15	まとめ

3. 評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末テスト（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

4. 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕 昇地勝人 他 『養護原理』 ナカニシヤ書房